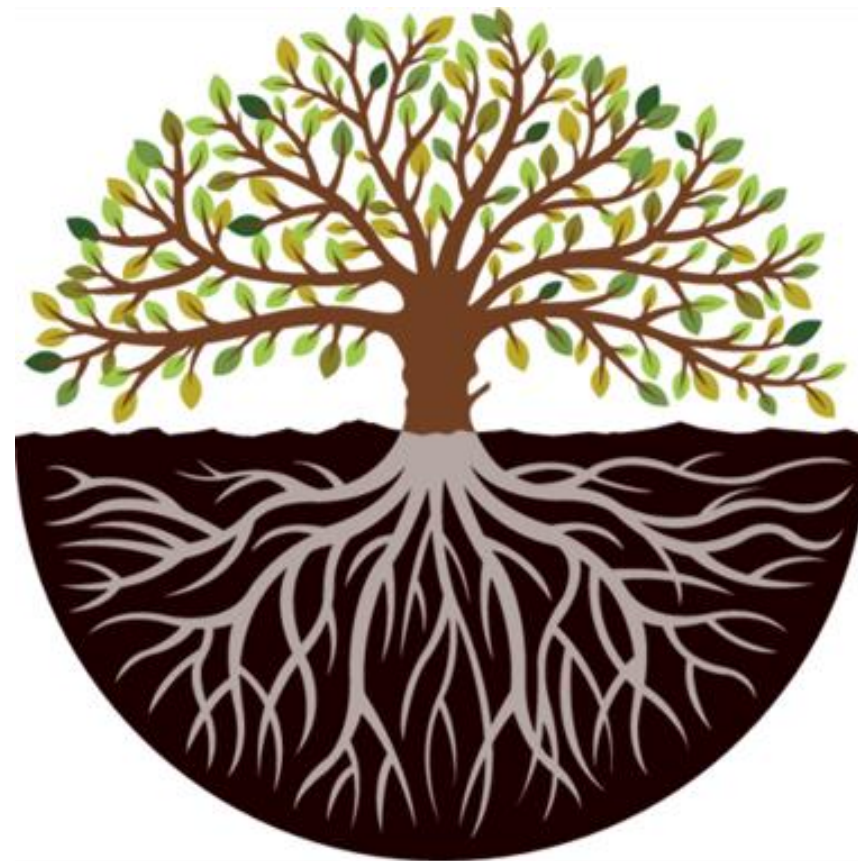




第3次清瀬市教育振興基本計画策定支援業務 基礎調査資料

有限責任監査法人トーマツ
令和7年9月22日（月）



総括

少子高齢化により将来的には人口や年少人口の減少が見込まれますが、子どもの健全な成長を実感できる環境づくりや困ったときに相談できる体制の充実が引き続き求められます

全般

人口	➤ 清瀬市の人口は2016年から2025年まで約75,000人と横ばいで推移していますが、世帯数は3,000世帯、外国人人口は600人増加しています ➤ 外国人の児童生徒の数は2023年までは60人台でしたが、2024年は70人台、2025年は80人台にまで増加しています ➤ 将来の清瀬市の人口は2050年までに約75,000人から約72,000人に減少の見込みです（うち0～14歳の年少人口は約1,000人減少）
生徒数	➤ 幼稚園児数は2016年から2024年までに約300人減少しており、教諭一人あたりの園児数も減少傾向です ➤ 小学校の生徒数は2016年から2024年までに約400人減少しており、1学級あたりや教員一人あたりの生徒数は減少傾向にあります ➤ 中学校の生徒数は2016年から2024年までに約100人減少しており、1学級あたりや教員一人あたりの生徒数についても減少しています ➤ 高校の生徒数は2016年から2024年まで870人～990人の間でほぼ横ばいとなっており、教員一人あたりの生徒数も変化が見られません
子どもの健全な成長	➤ 市内の子どもや若者は健全に育っていると思う人の割合について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は48.2%(2017年)から42.7%(2023年)と5.5ポイント減少し、「どちらともいえない」が46.7%(2023年)と最も高い結果となっています ➤ 不登校児童の割合は、小学校よりも中学校で高く、いずれにおいても年々増加傾向にあります ➤ 誕生から就労に至るまでの悩みごとを相談できる体制が充実していると思う人の割合について、「どちらともいえない」が過半数を超え、次いで「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計が約20%と高い傾向が続いています

◆ 人口

清瀬市の人口は10年間で横ばいですが、世帯数や外国人人口は増加するという変化が生じています。それぞれのニーズに応えるための施策が重要となります。また、将来の清瀬市の人口・年少人口は減少の見込みであり、少子高齢化を踏まえた施策を実施する必要があります。

◆ 生徒

幼稚園児数、小・中学校の生徒数は減少傾向であり、教員一人あたりの生徒数もわずかに減少がみられます。少子高齢化の影響を注視し、教員数が不足がしないよう、今後も十分に留意する必要があります。

◆ 子どもの健全な成長

子どもや若者が健全に育っていると思う人の割合（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）は、やや減少傾向にあります。また、不登校児童の割合は年々増加しています。さらに、誕生から就労に至るまでの悩みごとを相談できる体制の充実度については、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の割合が約20%で推移しています。家、学校、学校以外のそれぞれで居心地の良さを確保し、悩んだ際には相談できる環境を整えながら、子どもたちの健全な成長を支えることが求められます。

家や学校が居心地よいと感じる子どもが多い一方、勉強や遊び、部活動など多様なニーズに応じて、安心して過ごせる居場所づくりを進めていくことが求められます

学校教育の充実

学校環境	➤ 家は居心地がいいかという質問に対し、小学生から高校生まですべての年代で約9割以上の子どもが「よい」と回答しました ➤ 学校は居心地がいいかという質問に対し、小学生から高校生まですべての年代で約8割以上の子どもが「よい」と回答しました ➤ 家や学校以外で居心地の良い場所があるかという質問に対し、小学生は約7割以上、中学生と高校生は半数以上の子どもが「はい」と回答しました ➤ 普通教室数は各校によって差があるものの、小学校では9~24室、中学校では9~17室ある状況です ➤ 学校別改築年数については、清瀬小学校の校舎が2029年度に改築予定であり、体育館は14校中8校で大規模工事の予定です ➤ 日本語教育については、小学校・中学校それぞれで日本語の習熟度に応じて個別に日本語指導員を派遣しています
改善したい場所	➤ こんなところがあったら良いと思う施設や場所については、中学生は「自習室・勉強スペース」「ゲームができる場所」「バスケットコート」の順に多く、高校生は「自習室・勉強スペース」「運動場・スポーツセンター」「商業施設・レジャー施設」の順に多い結果となりました ➤ 幸せに暮らせるためにはどうしたらよいかという中学生への質問について、「ない」という回答が最も多く、次いで「公園・遊び場を増やす・広くする」、「学校を新しく改装する、学校を改善する」という回答が多い結果となりました
卒業後の進路	➤ 清瀬市の高校卒業後の大学進学率は、全国や東京都平均と比較して高く、2016年から2024年にかけて上昇傾向で推移しています ➤ 卒業したらしてみたいことについては、小学生(高学年)は「部活」「勉強・受験・塾」「友達作り」の順に多く、中学生は「部活」「アルバイト」「遊ぶ」の順に多い結果となりました

◆ 学校環境

家や学校が居心地がよいと思っている子どもが多く、安心して生活できていることを示唆しています。また、体育館の大規模工事が複数の学校で予定されるなど、施設の整備も計画的に進んでおり、日本語教育についても習熟度に応じた指導が行われています。今後も、施設の整備や、支援を必要とする子供への適切な支援の充実を図り、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりが引き続き求められます。

◆ 改善したい場所

「自習室・勉強スペース」が中高生で最も多く挙げられ、家以外で勉強できる場所が求められています。また、中学生の「幸せに暮らせるためにはどうしたらよいか」という質問では「公園・遊び場を増やす・広くする」が「ない」に次いで多く、勉強場所だけでなく自由に遊べ、運動ができる場所も必要とされています。

◆ 卒業後の進路

清瀬市の高校卒業後の大学進学率は高く、約10年間上昇傾向です。小中学生は卒業後「部活」をしたいという意見が最も多く、部活動が自由にできる環境を維持・充実させていく必要があります。

地域のつながりを感じる人の割合は少ないものの、コミュニティスクールの導入など地域で学校教育に携わる基盤が整いつつあり、今後はさらなる支援や関わりの充実が求められます

地域による子どもの育ちと学びの支援

地域の つながり	➤ 地域のつながりや交流ができていると思う人の割合について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した人は、32.2%(2017年)から23.2%(2023年)へと減少しています ➤ この一年で地域の活動やイベントに参加したことがある人の割合について、「はい」と回答した人は35.0%(2017年)から16.6%(2023年)へと減少しています
学校と地域 との関わり	➤ 学校の行事に協力したり参加したりしたことがある人の割合について、「いいえ」と回答した人は43.7%(2017年)から50.8%(2023年)へと増加しています ➤ コミュニティスクールについては2022年から2025年にかけて全14校（小中学校）に導入し、導入率100%となりました
地域での 活動・見守り	➤ 子どもが地域等で自分らしく表現する場が十分あると思う人の割合について、「どちらともいえない」が過半数を超え、次いで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が約25%と高い傾向が続いています ➤ 子どもや若者が地域で見守られていると思う人の割合について、「どちらともいえない」が約半数となっており、次いで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が約30%と高い傾向が続いています



◆ 地域のつながり

地域のつながりや交流ができていると思う人は6年間で減少しており、同様に地域の活動やイベントに参加したことがある人の割合も減少しています。地域の活動やイベントをより充実させるとともに、周知方法についても工夫する必要があります。

◆ 学校と地域との関わり

学校の行事に協力したり参加したりしたことがある人の割合は6年間でやや減少していますが、コミュニティスクールが全小中学校に導入されました。地域で学校の教育活動に携わる基盤ができたため、今後はよりコミュニティスクールの機能を充実させ、学校と地域との関わりを増やしていくことが求められます。

◆ 地域での活動・見守り

「子どもが地域等で自分らしく表現する場が十分」と感じる人（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）は約25%となっています。また、子どもや若者が地域で見守られていると感じる人も約3割にとどまっています。子どもが自分らしく過ごせる機会や、地域の見守りを実感できるよう、地域との関わりを増やし、さらなる支援が求められます。

市の歴史・伝統文化への関心や生涯学習の機会が少ない状況に加え、スポーツ活動の場や機会の充実を求める声も多いため、各分野のニーズに応じた支援が求められます

生涯学習・文化・芸術・スポーツの支援

歴史・伝統文化	➤ 市の歴史や伝統文化、文化財等に関心がある人の割合について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人は51.8%(2017年)から43.3%(2023年)と減少しています ➤ この一年で市内の伝統行事を見に行ったり参加したりしたことがある人の割合について、「いいえ」と回答した人は59.1%(2017年)から82.4%(2023年)へと増加しています
生涯学習	➤ この一年で生涯学習を行う機会（学びの機会）をもつことができたと思う人の割合について、「いいえ」と回答した人は71.8%(2017年)から78.3%(2023年)とやや増加しています ➤ 生涯学習を行う上で、充実させた方が良いと思うものについては、「生涯学習施設の充実」と回答した人が最も多く、次いで「音楽、芸術、芸能、映画などの鑑賞機会の充実」、「文化・芸術団体、自主サークル活動に対する支援・育成」が多い結果となりました ➤ これまで身に付けた知識や技術を自分以外のために活かしていると思う人の割合について、「いいえ」と回答した人は46.2%(2017年)から52.7%(2023年)へと増加しています
スポーツ活動	➤ スポーツ活動を行う上で、充実させた方が良いと思うものについては、「スポーツ・レクリエーション施設の充実」が最も多く、次いで「健康づくりや体力づくりを学ぶための教室の開催」「スポーツ大会などの競技会の充実」が多い結果となりました

◆ 歴史・伝統文化

市の歴史や伝統文化に関心があると答えた人は少なく、市内の伝統行事に見に行ったり参加したことがない人は2023年には82.4%に上っています。歴史や伝統文化について市が積極的に発信し、博物館などへの来館を促すことで、市への愛着や関心を高めることが重要です。

◆ 生涯学習

生涯学習を行う機会をもつことができたと思う人の割合は少なく、2023年には78.3%が「いいえ」と回答しています。より生涯学習を促進するため、「生涯学習施設の充実」や「音楽、芸術、芸能、映画などの鑑賞機会の充実」などニーズにそった支援を行う必要があります。また、身に付けた知識や技術を他者のために活かせる機会をつくり、学びを地域や社会に還元できていると実感できる人を増やすことも重要です。

◆ スポーツ活動

スポーツ活動を行う上で、充実させた方が良いと思うものについて、「スポーツ・レクリエーション施設の充実」が最も多く、次いで「健康づくりや体力づくりを学ぶための教室の開催」「スポーツ大会などの競技会の充実」が多くなっています。スポーツを行う場所の充実や学ぶ機会が求められています。

清瀬市の教育の取り巻く環境を把握するため、下記の項目をとりまとめています

項目一覧

出所		項目	データ取得範囲
統計データ	住民基本台帳	現在の人口、世帯数10年分 ※外国人人口の推移も含む	2016年～2025年
	国立社会保障・人口問題研究所	将来人口（0～14歳、15～64歳、65歳以上の3区分、20歳まで5歳区分）	2000年～2050年
	統計きよせ	学校数、学級数、児童数及び教員数（幼稚園、小中高別）	2016年～2024年
		卒業後の進路状況（高校生）	2016年～2024年
	清瀬市教育委員会	コミュニティスクール導入状況	2022年～2025年
	市提供データ	不登校児童数	2020年～2023年
		いじめ認知件数	2020年～2023年
		外国人の児童生徒の数	2025年
		学校別改築年数	～2026年
		教室数（小学校・中学校）	2020年～2025年
		日本語教育等の状況	2020年～2025年
		特別支援学級・特別支援教室・通級指導学級の児童・生徒数	2018年～2025年
清瀬市世論調査 ※経年比較		市内の子どもや若者は健全に育っていると思う人の割合	2017年、2020年、2023年
		誕生から就労に至るまでの悩みごとを相談できる体制が充実していると思う人の割合	
		地域のつながりや交流ができていると思う人の割合	
		この一年で地域の活動やイベントに参加したことがある人の割合	

清瀬市の教育の取り巻く環境を把握するため、下記の項目をとりまとめています

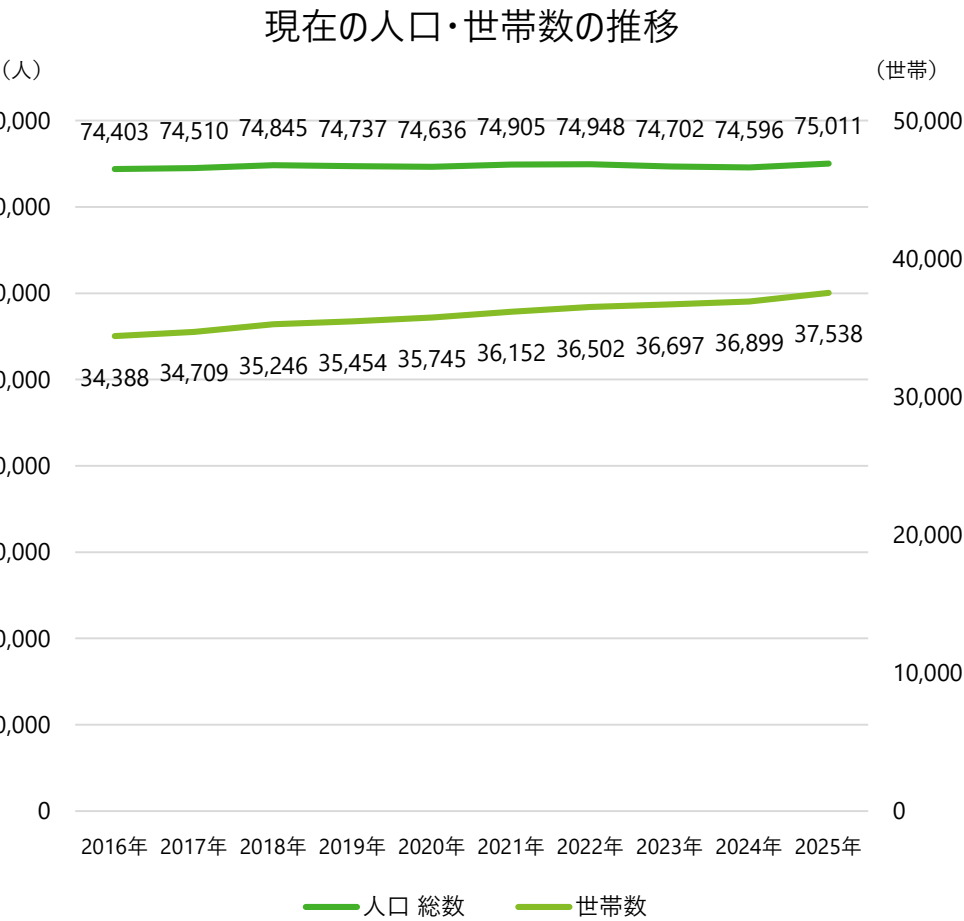
項目一覧

出所	項目	データ取得範囲
清瀬市世論調査 ※経年比較	学校の行事に協力したり参加したりしたことがある人の割合	2017年、2020年、 2023年
	子どもが地域等で自分らしく表現する場が十分あると思う人の割合	
	子どもや若者が地域で見守られていると思う人の割合	
	これまで身に付けた知識や技術を自分以外のために活かしていると思う人の割合	
	市の歴史や伝統文化、文化財等に関心がある人の割合	
	この一年で市内の伝統行事を見に行ったり参加したりしたことがある人の割合	
	生涯学習を行う上で、充実させた方が良いと思うもの	
	スポーツ活動を行う上で、充実させた方が良いと思うもの	
令和6年度清瀬市子どもの 意見聴取	家は居心地が良いか、学校は居心地が良いか、家や学校以外で居心地の良い場所があるか	2024年
	こんなところがあったら良いなと思う施設や場所	
	卒業したらしてみたいこと、体験してみたい職業	
	何をしているときに充実しているか、幸せに暮らせるためにはどうしたらよいか	

統計データ

清瀬市の人口は2016年から2025年まで約75,000人と横ばいで推移していますが、世帯数は3,000世帯、外国人人口は600人増加しています

現在の人口・世帯数（外国人人口の推移含む）



将来の清瀬市の人口は2050年までに約75,000人から約72,000人に減少見込みであり、0~14歳の年少人口は約1,000人減少の見込みです

将来人口（0~14歳、15~64歳、65歳以上の3区分）

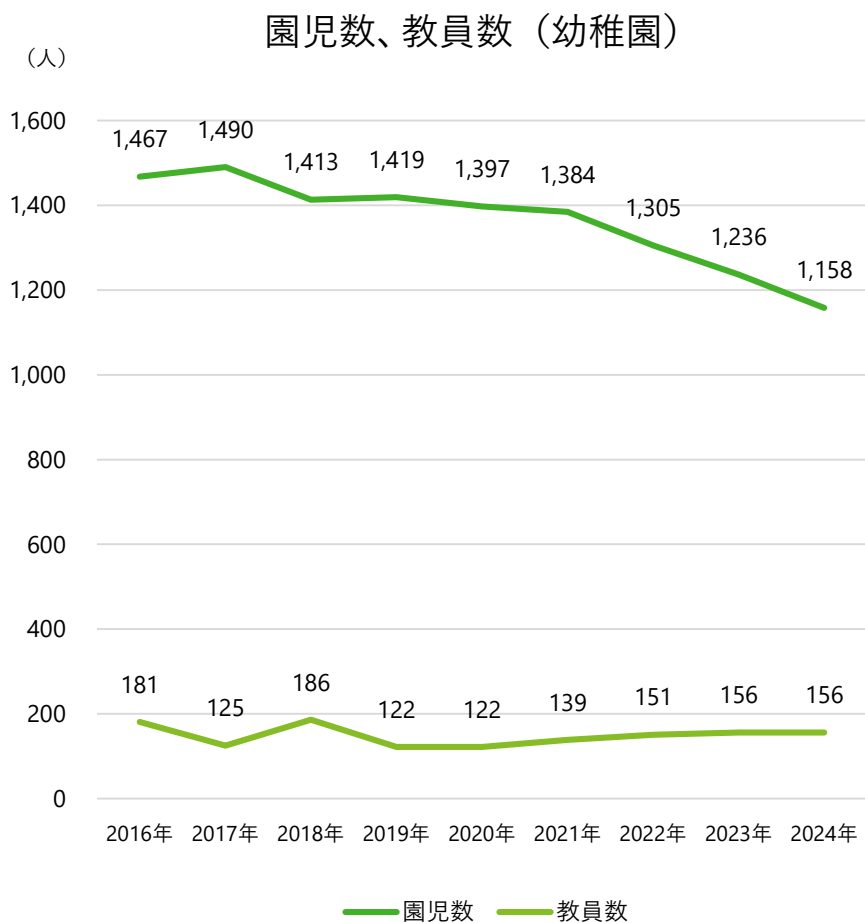


出所：国立社会保障・人口問題研究所、e-stat住民基本台帳の人口データを元に
トーマツ作成

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

幼稚園児数は2016年から2024年までに約300人減少しており、 幼稚園教諭一人あたりの園児数は2019年以降、減少傾向にあります

学校数、学級数、児童数及び教員数（幼稚園）



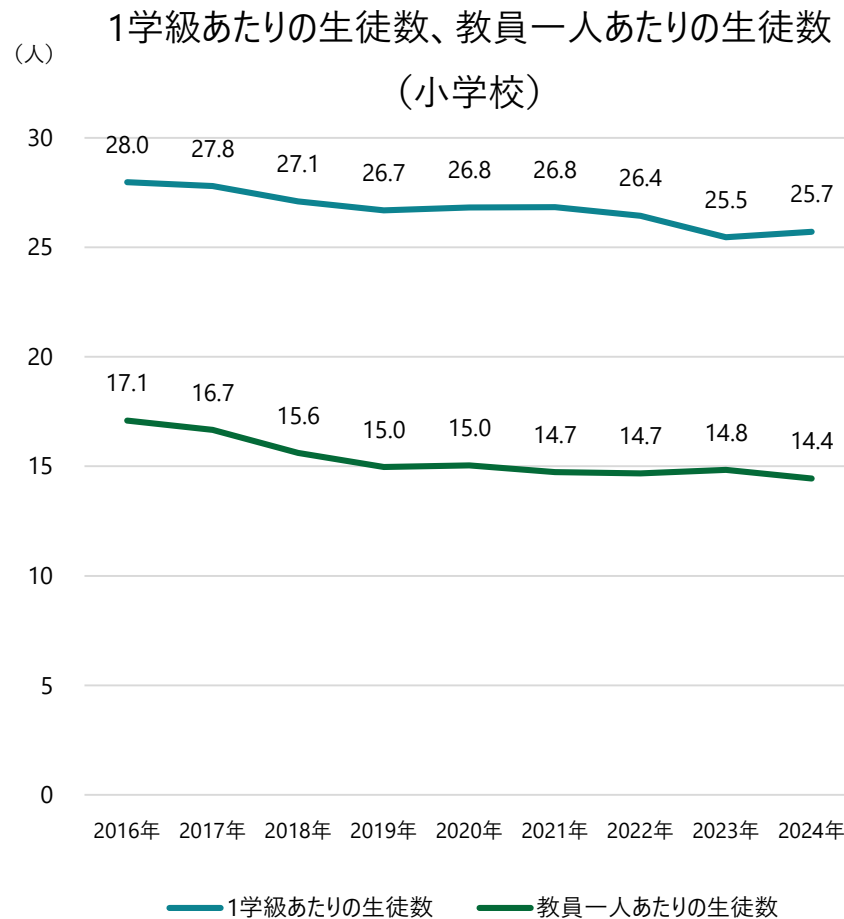
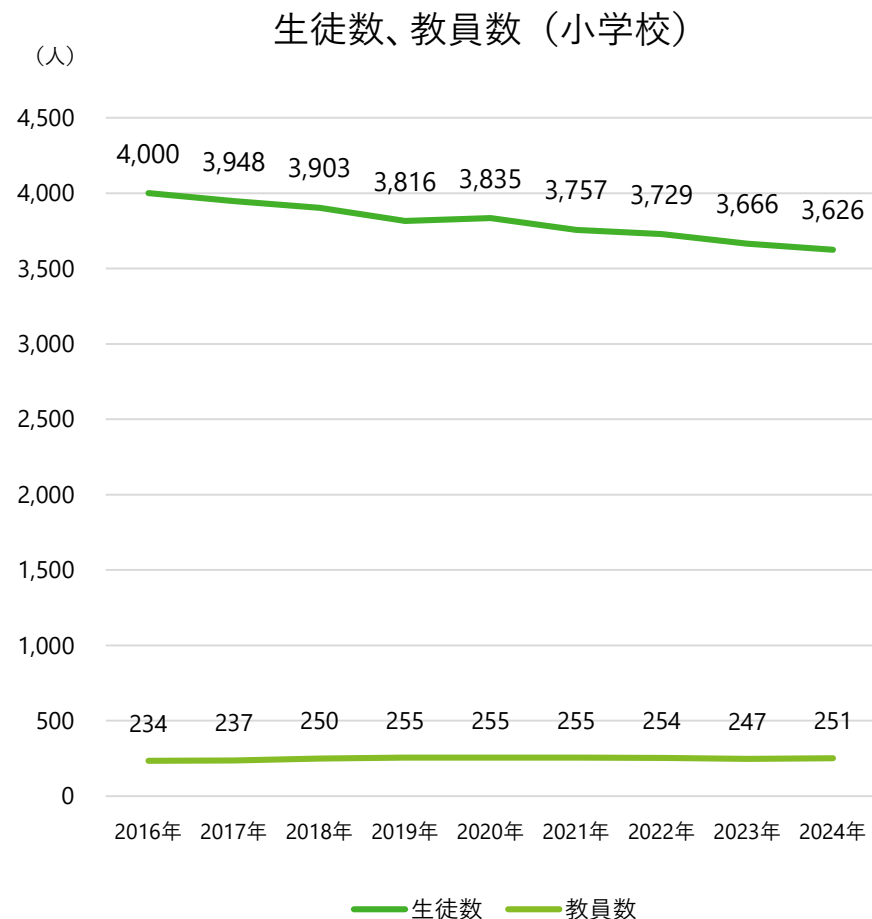
※幼稚園数は2016年～現在まで7
出所：統計きよせ

出所：統計きよせ

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

小学校の生徒数は2016年から2024年までに約400人減少しており、 1学級あたりの生徒数や教員一人あたりの生徒数も同様に減少しています

学校数、学級数、児童数及び教員数（小学校）

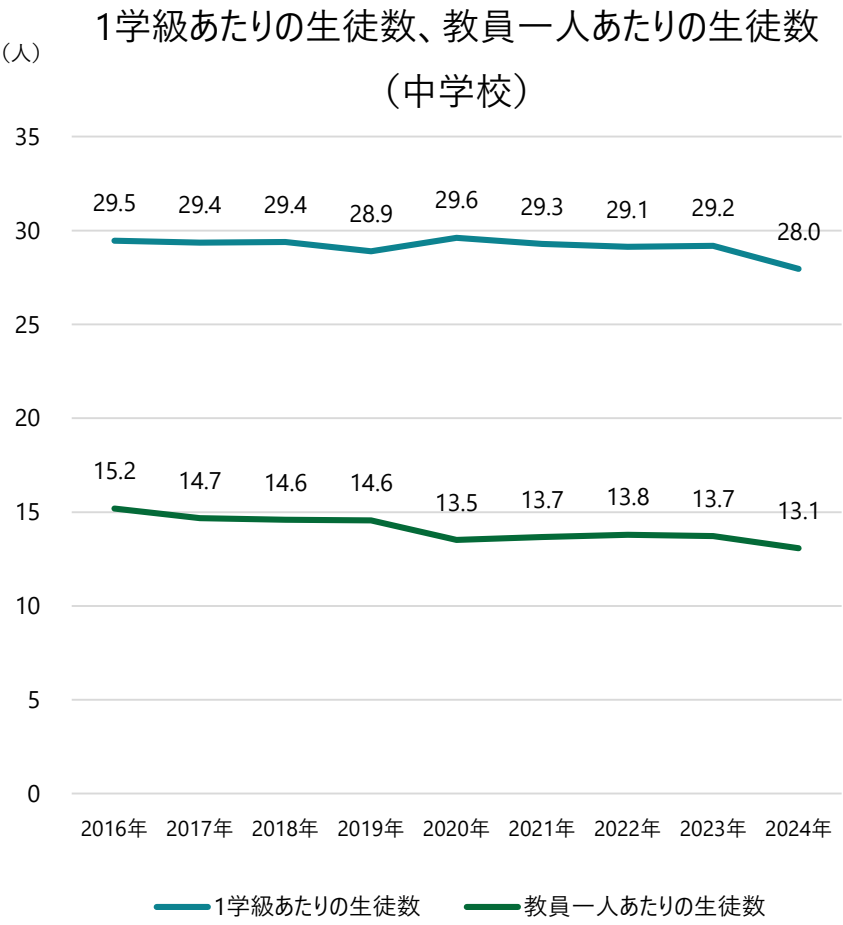
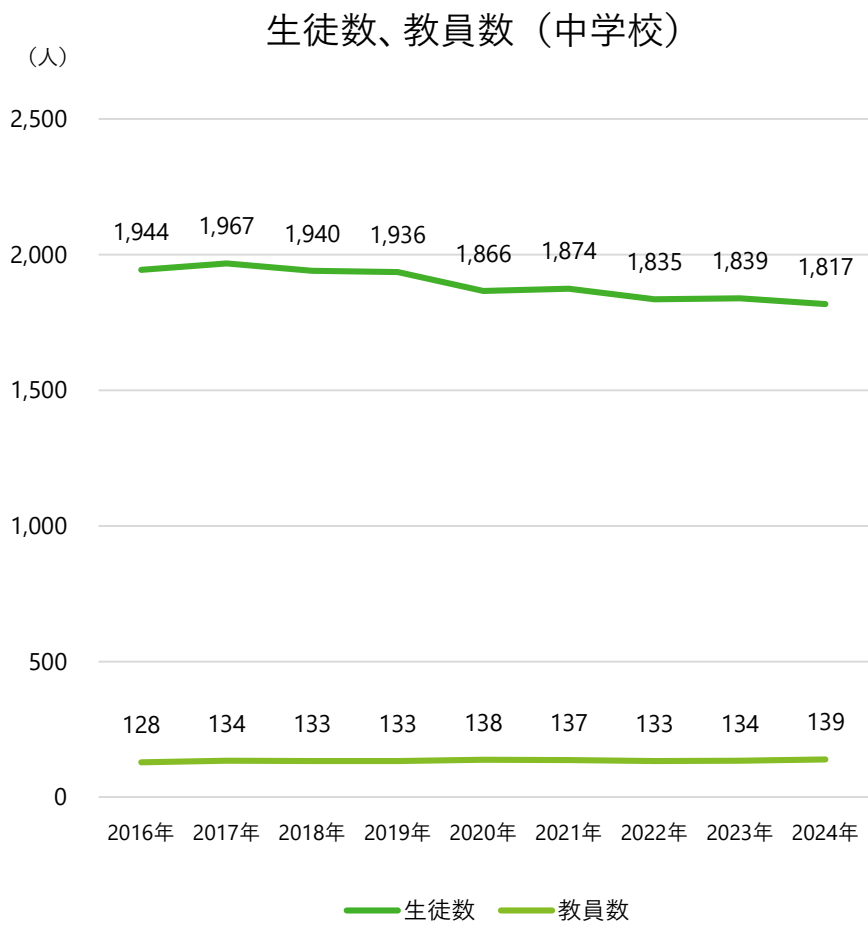


※小学校数は2016年～現在まで10
出所：統計きよせ

出所：統計きよせ

中学校の生徒数は2016年から2024年までに約100人減少しており、 1学級あたりの生徒数や教員一人あたりの生徒数についても同様に減少しています

学校数、学級数、児童数及び教員数（中学校）



※中学校数は2016年～現在まで6
出所：統計きよせ

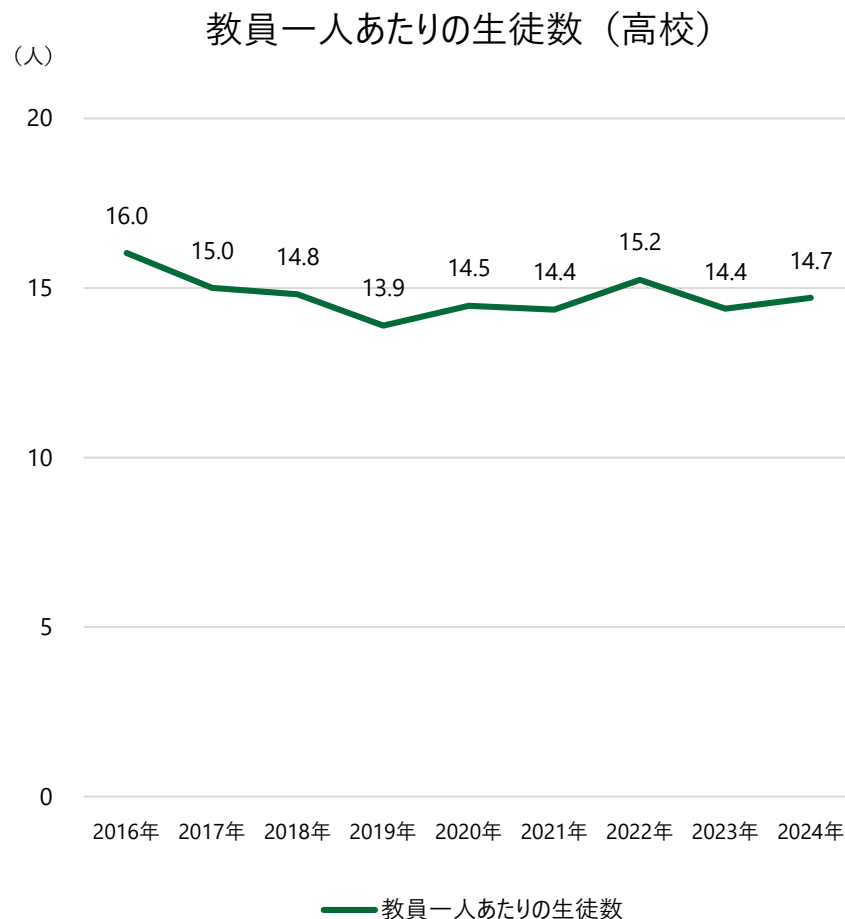
出所：統計きよせ

高校の生徒数は2016年から2024年まで870人～990人の間で推移し、ほぼ横ばいとなっており、教員一人あたりの生徒数についても大きな増減は見られません

学校数、学級数、児童数及び教員数（高校）



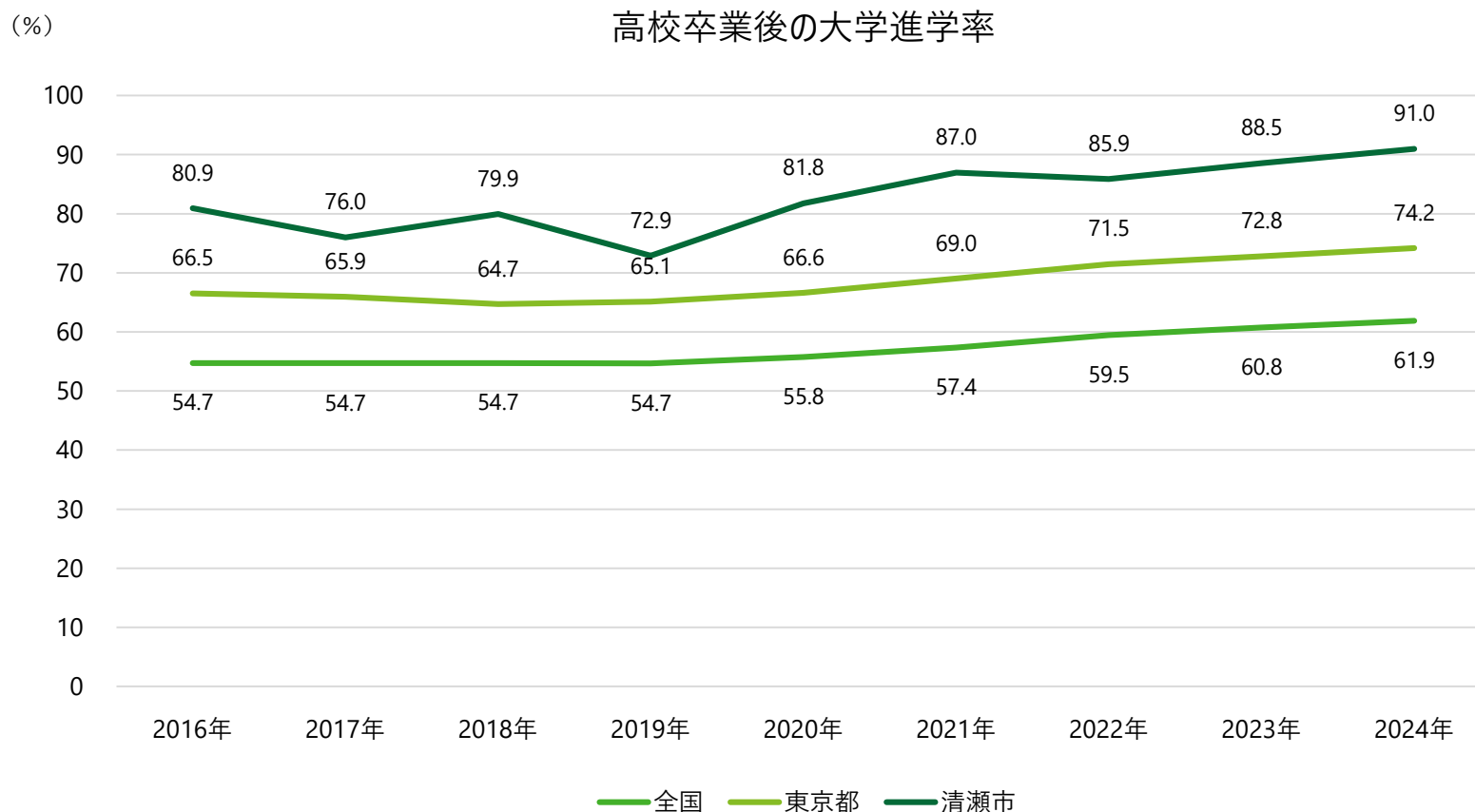
※高校数は2016年～現在まで2
出所：統計きよせ



※学級数は調査なし

清瀬市の高校卒業後の大学進学率は、全国平均や東京都平均と比較して高く、2016年から2024年にかけて上昇傾向で推移しています

卒業後の進路状況（高校生）

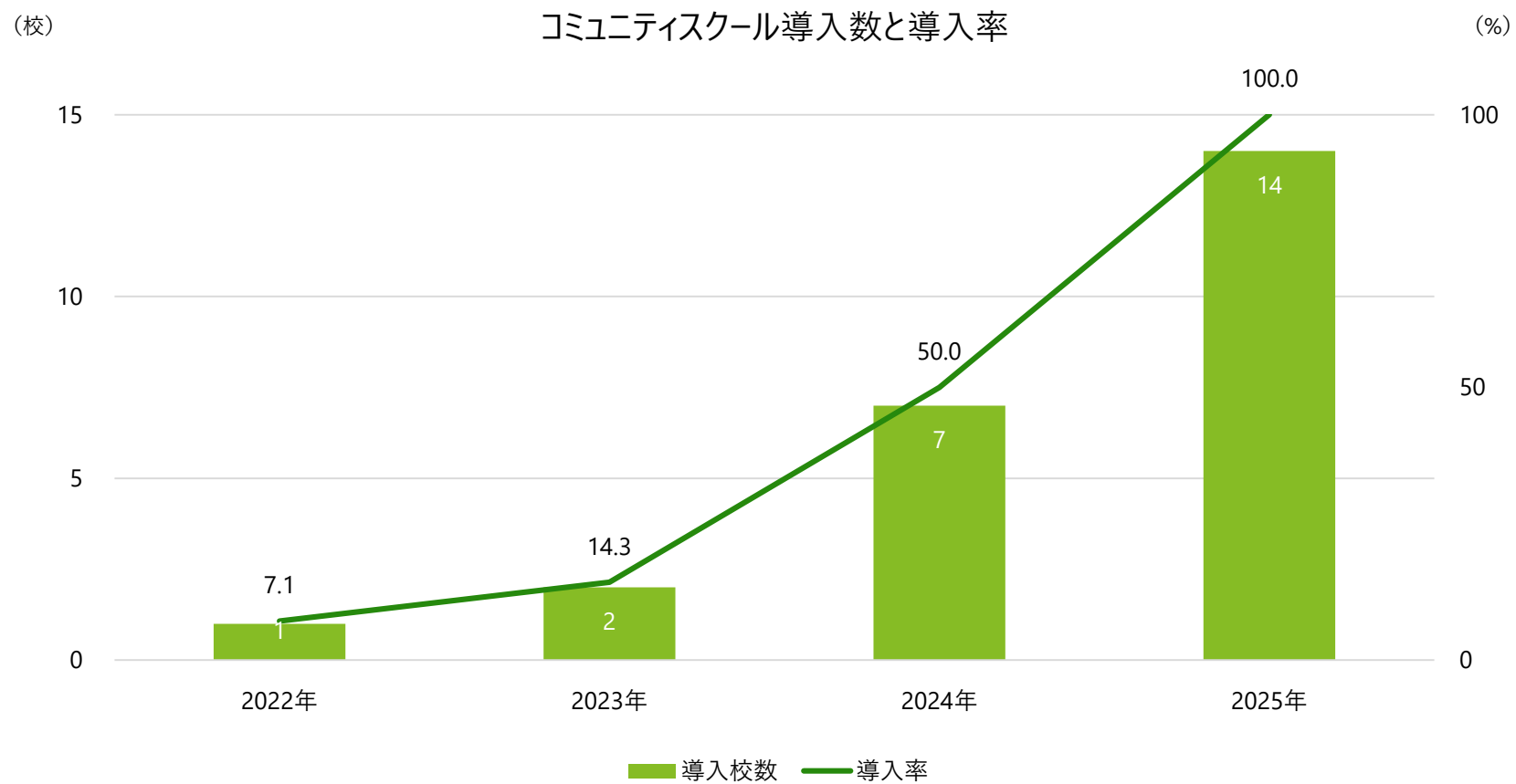


出所：統計きよせ、学校基本調査

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

コミュニティスクールについては2022年から2025年にかけて全14校（小中学校）に導入し、導入率100%となりました

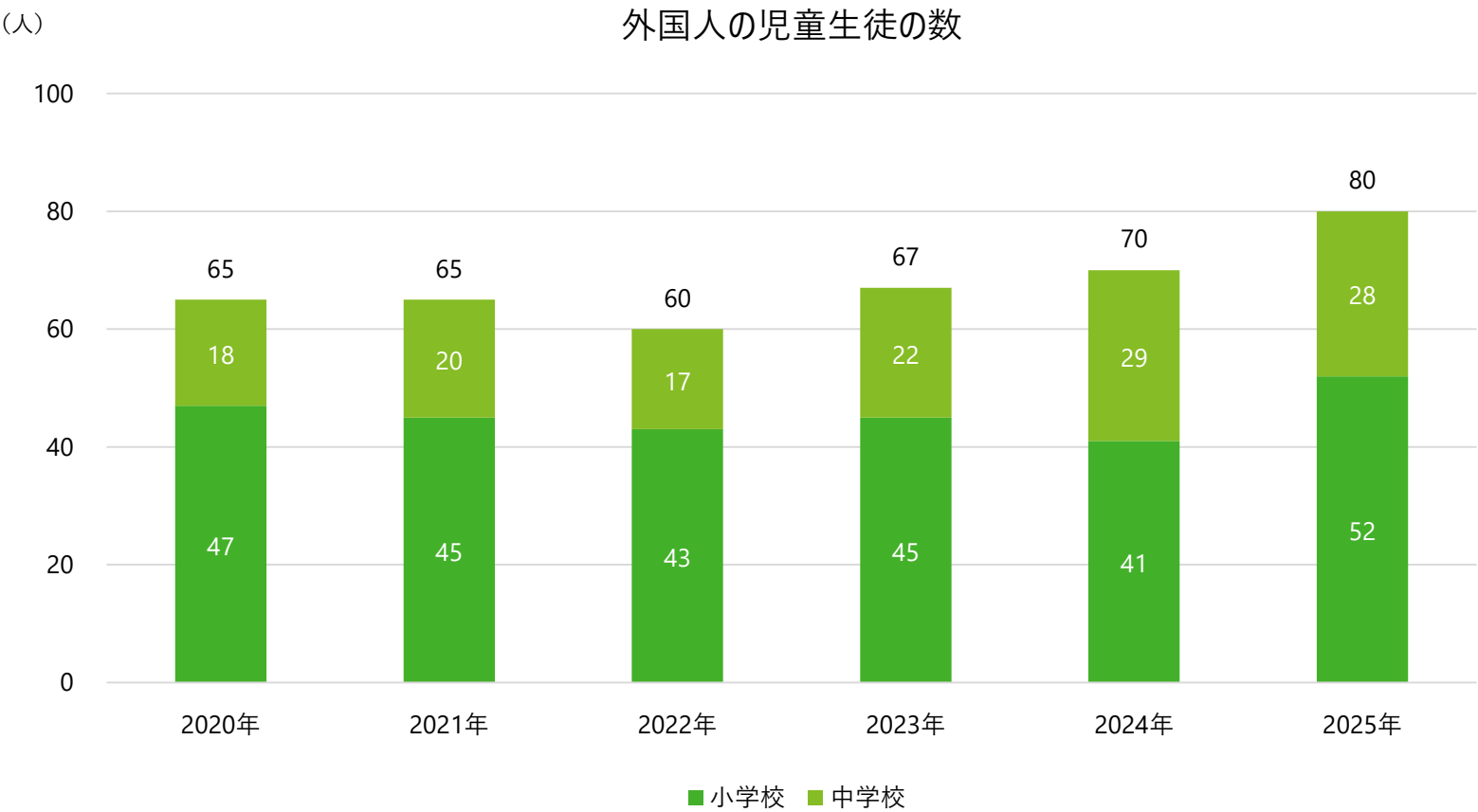
コミュニティスクール導入状況



※東京都の導入率は2024年4月1日時点で47.3%
出所：清瀬市教育委員会HP
© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

外国人の児童生徒の数は2023年までは60人台でしたが、2024年は70人台、2025年は80人台にまで増加しています

外国人の児童生徒の数



出所：清瀬市教育委員会提供データを基にトーマツにて作成
© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

学校別改築年数については、清瀬小学校の校舎が2029年度に建替予定であり、体育館は14校中8校で大規模工事が予定されています

学校別改築年数

学校名 ※（）内は開校年度	校舎	体育館	
	大規模工事	大規模工事	次回大規模工事
清瀬小学校（1897年度）	(初期大規模工事) 1988年度 1990年度 ※2029年度建替予定	1991年度	－
芝山小学校（1953年度）	2012年度	1988年度	2026年度予定
清瀬第三小学校（1963年度）	2014年度	1994年度	2025年度
清瀬第四小学校（1967年度）	2017年度	1993年度	2028年度予定
清瀬第六小学校（1970年度）	2017年度	1998年度	2023年度
清瀬第七小学校（1971年度）	2018年度	2004年度	2026年度予定
清瀬第八小学校（1973年度）	2018年度	1990年度	－
清瀬第十小学校（1976年度）	2008年度	2005年度	2025年度
清明小学校（1967年度）	2019年度	1990年度	2023年度
清瀬中学校（1947年度）	2011年度	2005年度	2026年度予定
清瀬第二中学校（1965年度）	2014～2015年度	2008年度	2028年度予定
清瀬第三中学校（1967年度）	2016年度	2006年度	2026年度予定
清瀬第四中学校（1975年度）	2004～2005年度	2007年度	2027年度予定
清瀬第五中学校（1981年度）	2013年度	2007年度	2027年度予定

※大規模工事から20年以降経過し、次期工事が決まっていないものも緑色、来年度以降工事が決まっているものをオレンジ色としています

普通教室数は各校によって差があるものの、小学校では9~24室、中学校では9~17室ある状況です

教室数（小学校・中学校）

【小学校】

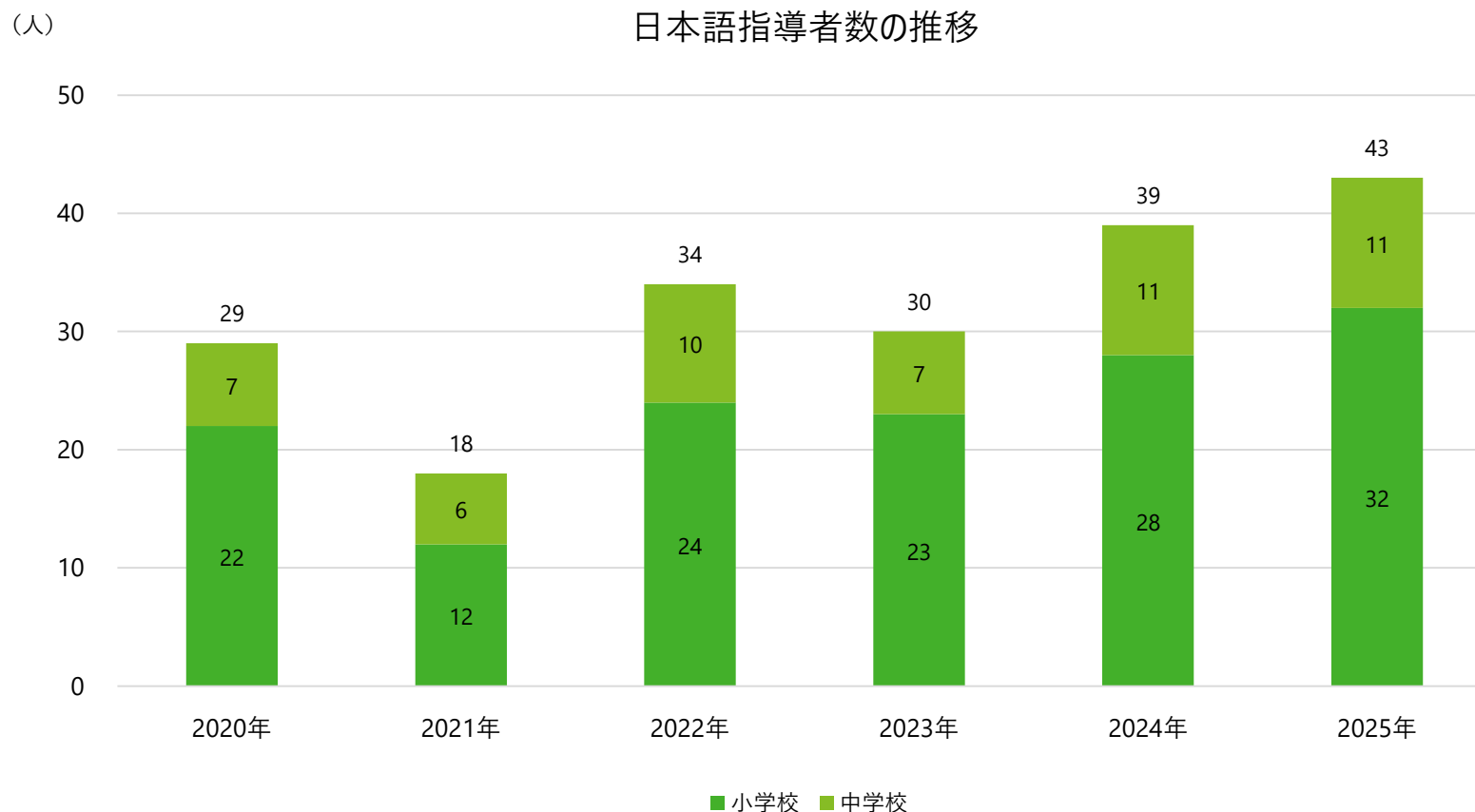
	普通教室	特別教室関係							
		理科	生活	音楽	図画工作	家庭	図書室	特別活動	教育相談
清瀬小学校	24	1	-	1	1	1	1	5	1
芝山小学校	12	1	-	1	1	1	1	2	1
清瀬第三小学校	11	1	-	1	1	2	1	8	2
清瀬第四小学校	9	1	-	1	1	1	1	4	1
清瀬第六小学校	14	1	-	1	1	1	1	7	1
清瀬第七小学校	13	1	1	1	1	1	1	9	2
清瀬第八小学校	20	1	-	1	1	1	1	4	1
清瀬第十小学校	20	1	-	1	1	1	1	6	1
清明小学校	15	1	1	1	1	1	1	5	1

【中学校】

	普通教室	特別教室関係								
		理科	音楽	美術	技術	家庭	視聴覚	図書室	特別活動	教育相談 進路資料・指導
清瀬中学校	12	2	1	1	1	2	1	1	10	1
清瀬第二中学校	17	2	1	1	1	2	-	1	7	1
清瀬第三中学校	14	2	1	1	1	2	-	1	6	1
清瀬第四中学校	9	2	1	1	2	2	1	1	6	1
清瀬第五中学校	9	2	1	1	1	2	1	1	5	1

日本語教育については、小学校・中学校それぞれで日本語の習熟度に応じて個別に日本語指導員を派遣しており、指導員の数は2020年の29人から2025年には43人に増加しています

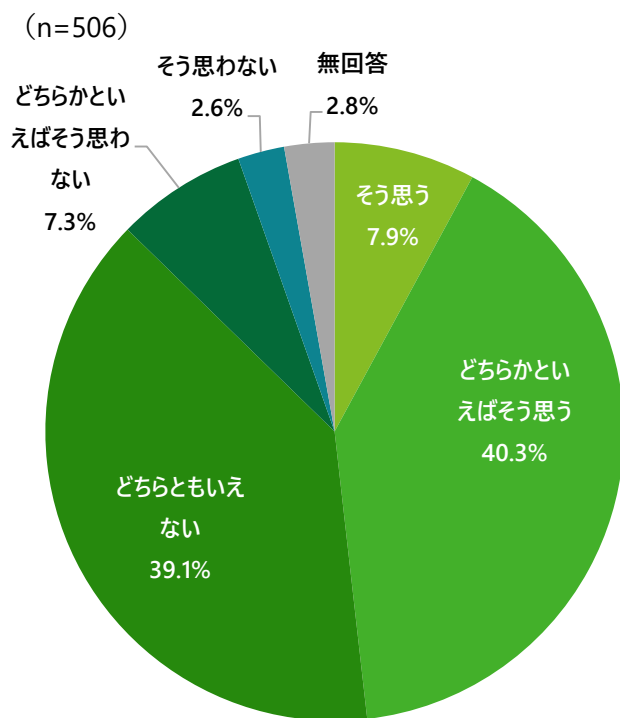
日本語教育等の状況



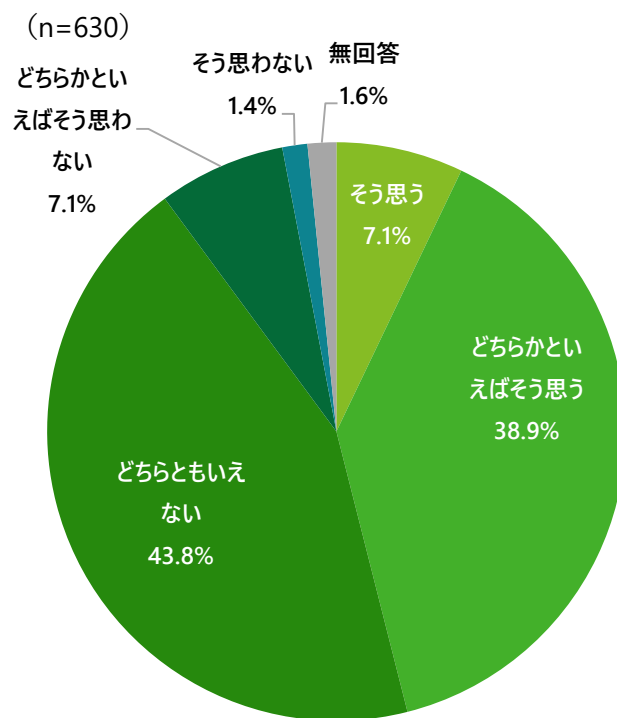
清瀬市世論調査

市内の子どもや若者は健全に育っていると思う人の割合について、
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は48.2%(2017年)から42.7%(2023年)と5.5ポイント
減少し、「どちらともいえない」が46.7%(2023年)と最も高い結果となっています

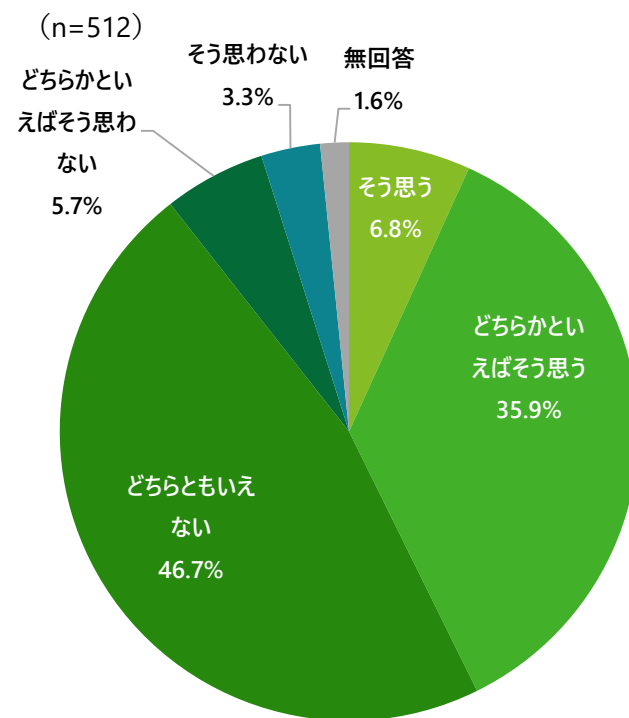
市内の子どもや若者は健全に育っていると思う人の割合



2017年



2020年



2023年

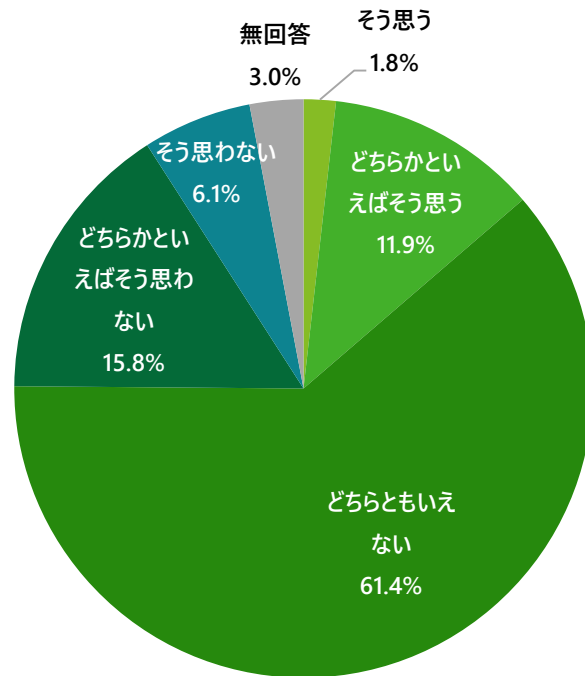
出所：清瀬市世論調査

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

誕生から就労に至るまでの悩みごとを相談できる体制が充実していると思う人の割合について、「どちらともいえない」が過半数を超え、次いで「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計が約20%と高い傾向が続いています

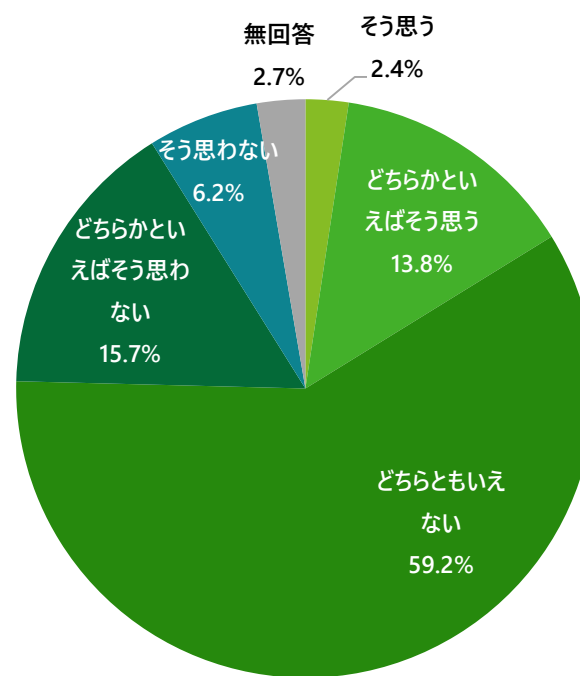
誕生から就労に至るまでの悩みごとを相談できる体制が充実していると思う人の割合

(n=506)



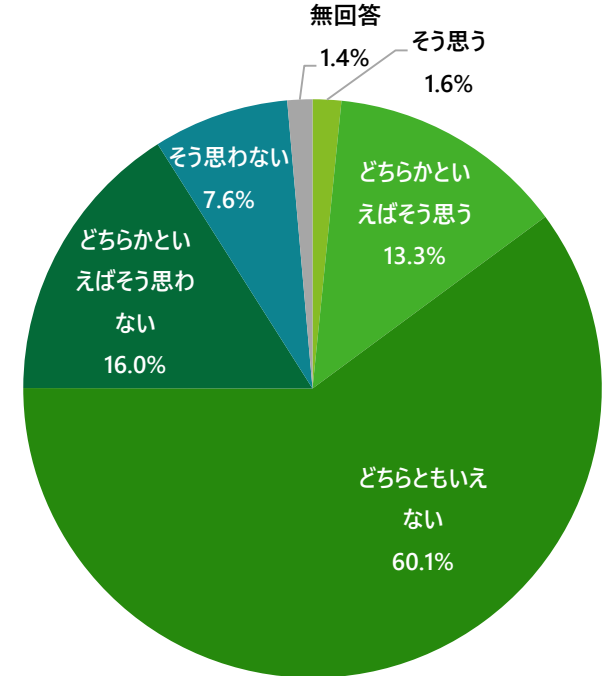
2017年

(n=630)



2020年

(n=512)



2023年

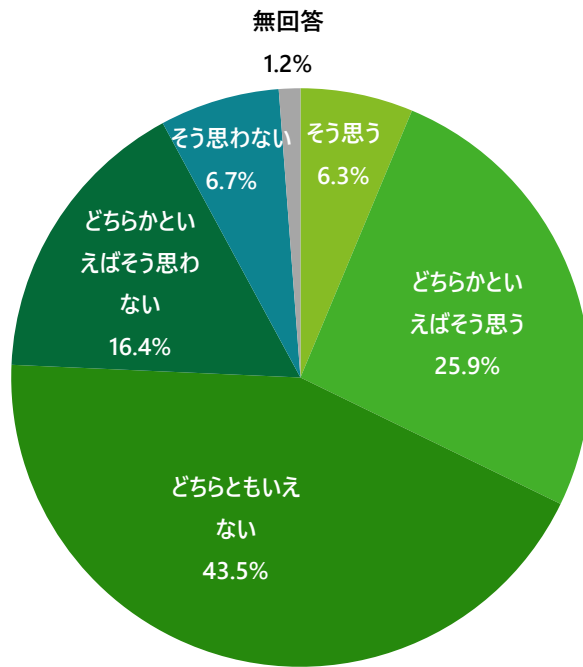
出所：清瀬市世論調査

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

地域のつながりや交流ができていると思う人の割合について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した人は、32.2％(2017年)から23.2％(2023年)へと減少しています

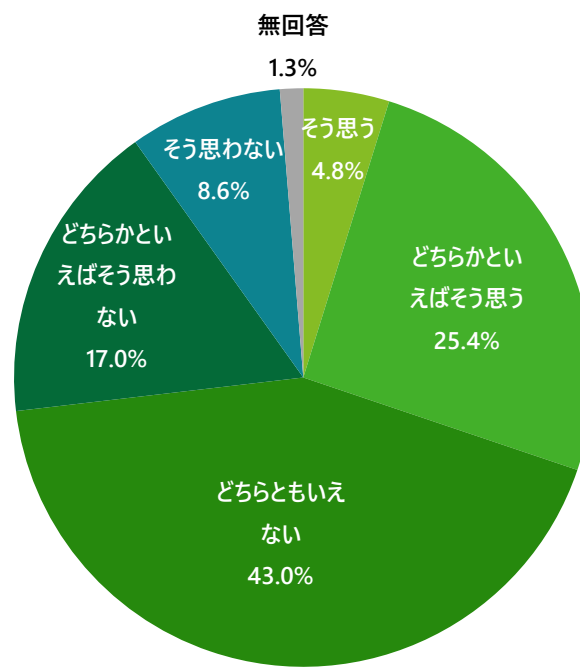
地域のつながりや交流ができていると思う人の割合

(n=506)



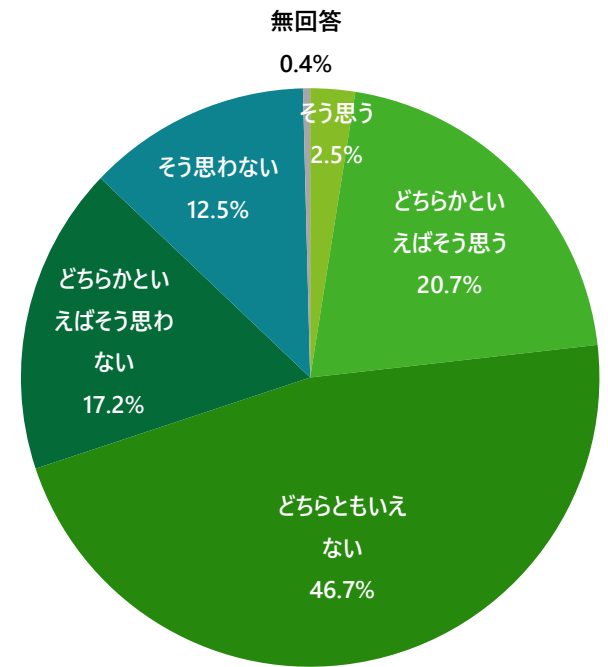
2017年

(n=630)



2020年

(n=512)



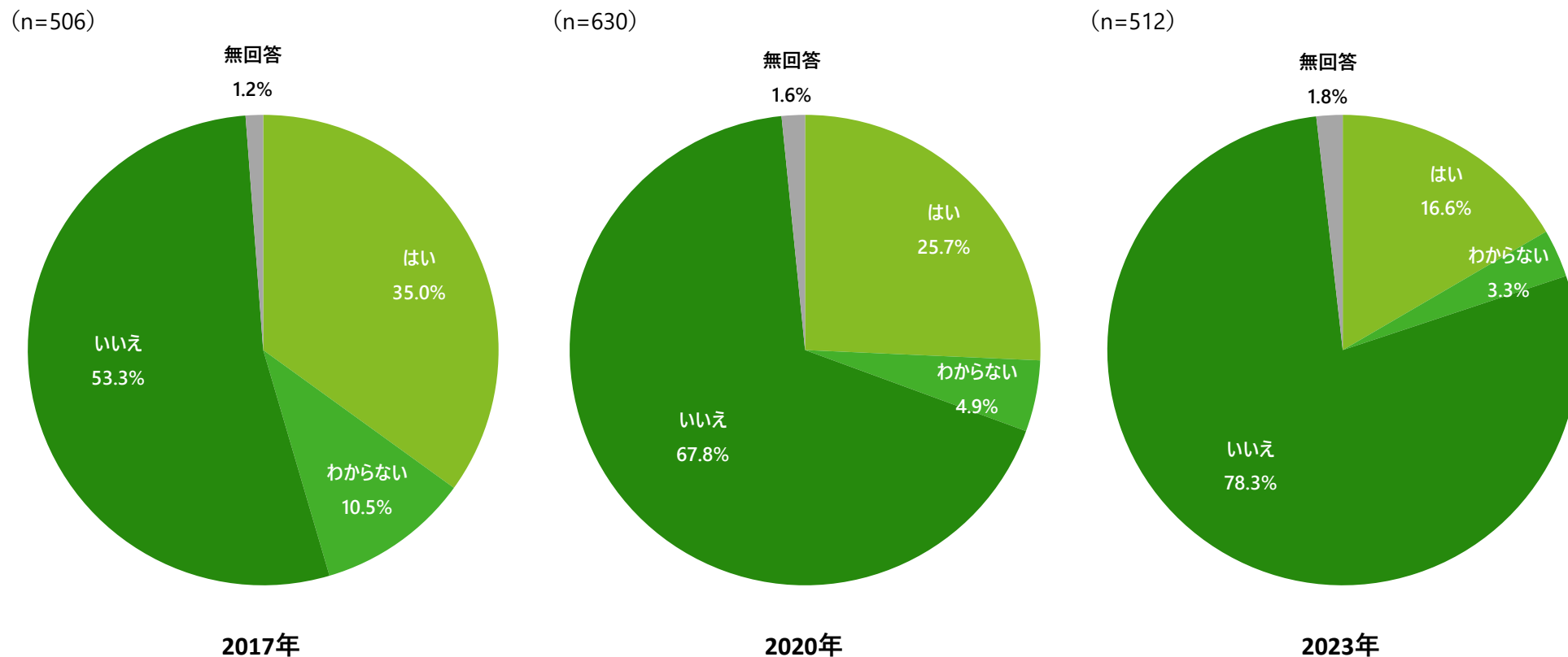
2023年

出所：清瀬市世論調査

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

この一年で地域の活動やイベントに参加したことがある人の割合について、
「はい」と回答した人は35.0%(2017年)から16.6%(2023年)へと減少しています

この一年で地域の活動やイベントに参加したことがある人の割合

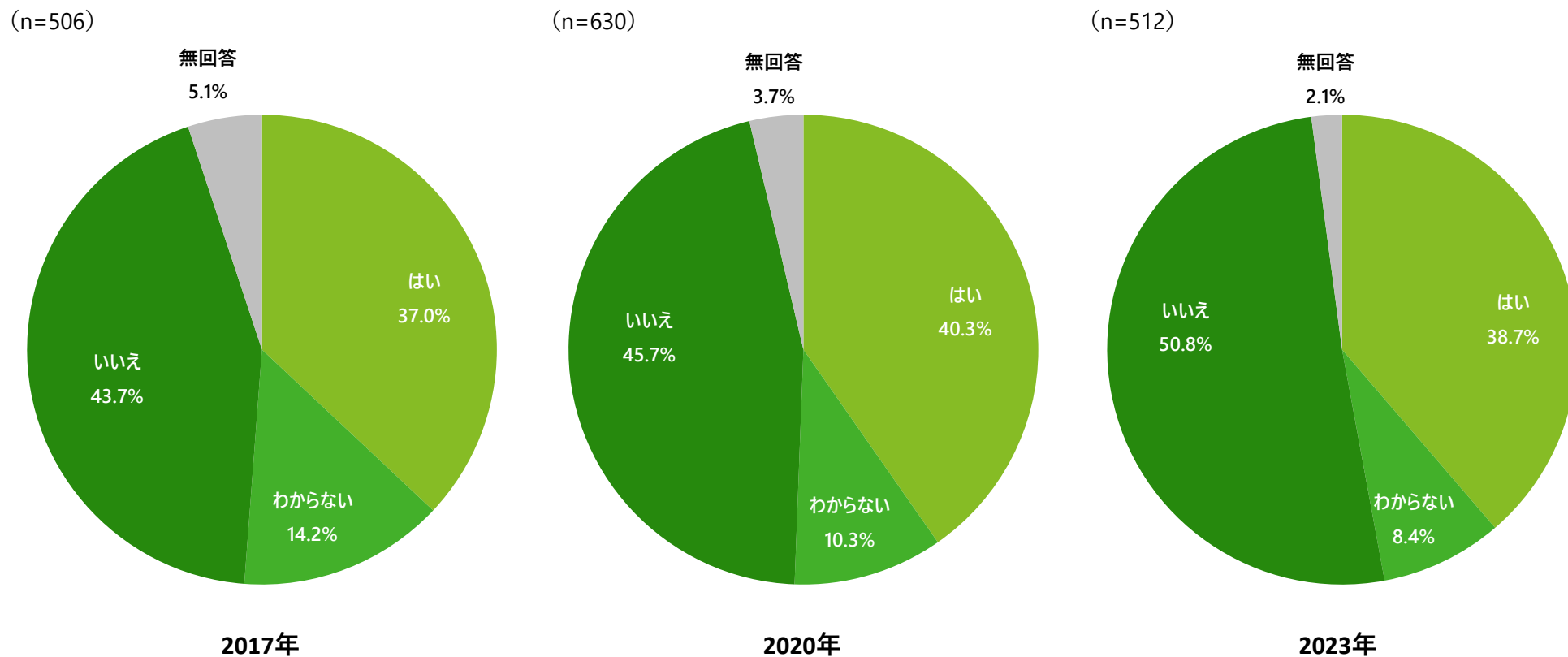


出所：清瀬市世論調査

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

学校の行事に協力したり参加したりしたことがある人の割合について、
「いいえ」と回答した人は43.7%(2017年)から50.8%(2023年)へと増加しています

学校の行事に協力したり参加したりしたことがある人の割合

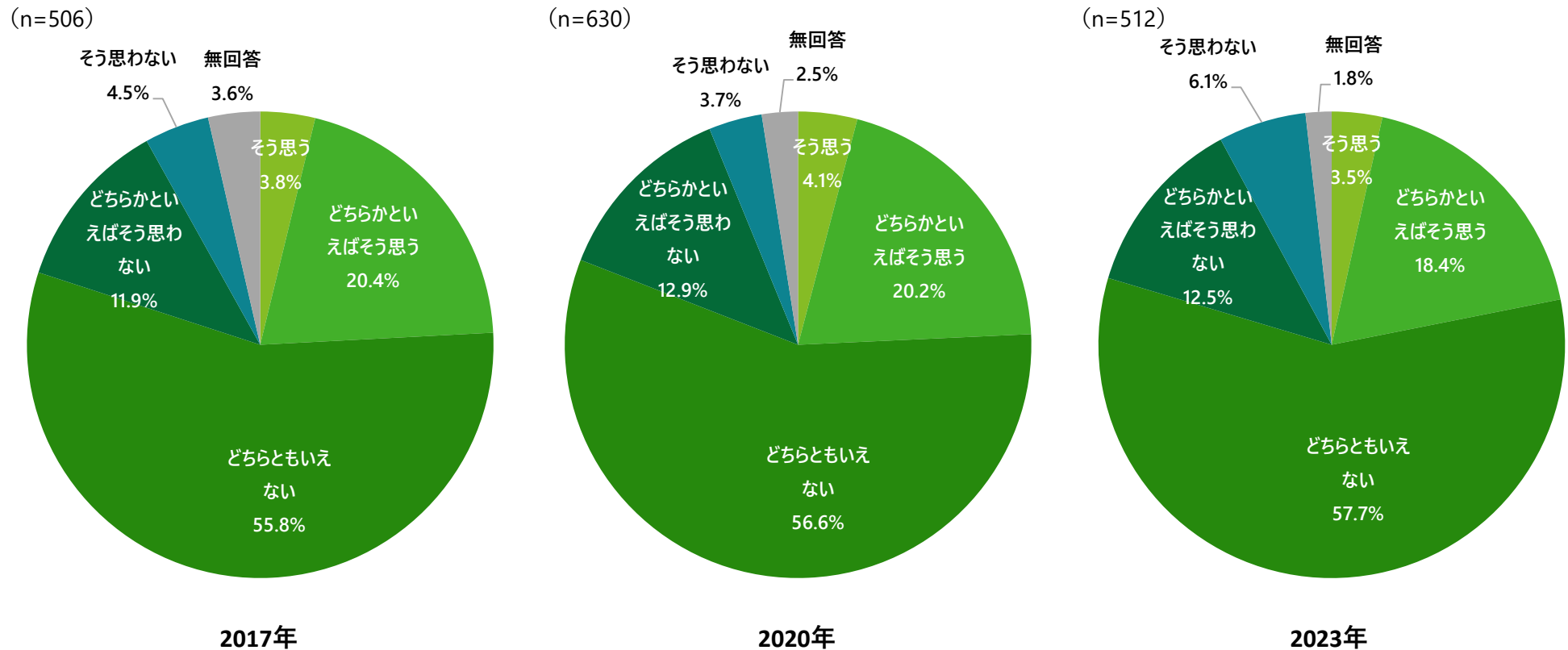


出所：清瀬市世論調査

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

子どもが地域等で自分らしく表現する場が十分あると思う人の割合について、
「どちらともいえない」が過半数を超え、次いで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が約25%の傾向が続いています

子どもが地域等で自分らしく表現する場が十分あると思う人の割合

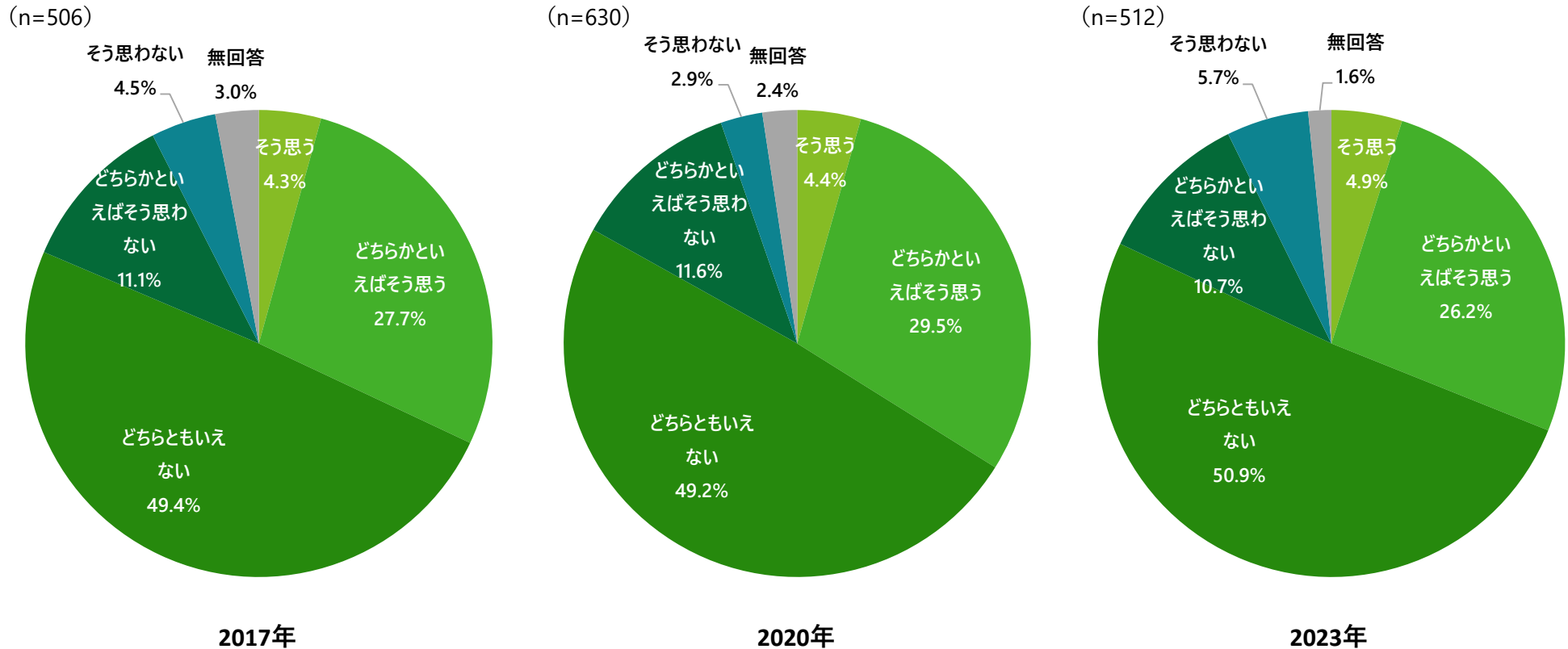


出所：清瀬市世論調査

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

子どもや若者が地域で見守られていると思う人の割合について、
「どちらともいえない」が約半数となっており、次いで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が約30%と高い傾向が続いています

子どもや若者が地域で見守られていると思う人の割合

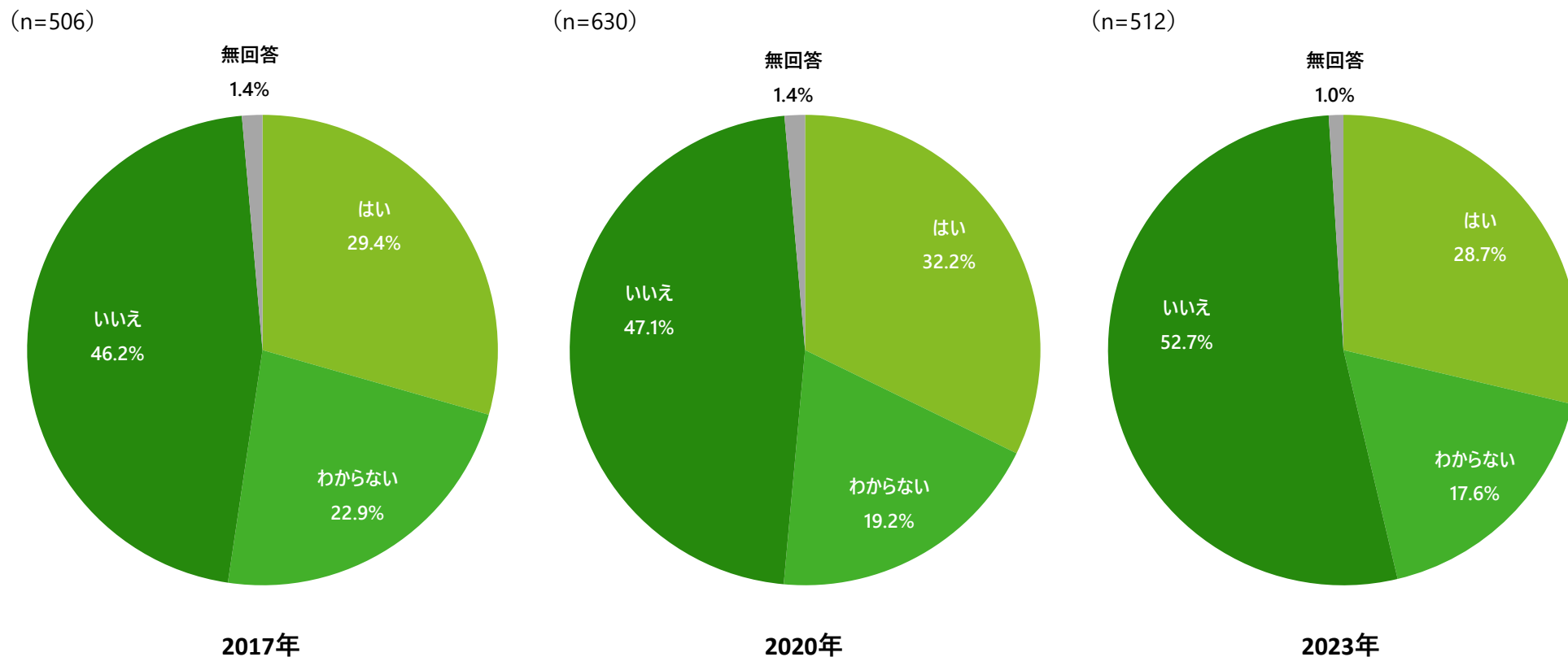


出所：清瀬市世論調査

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

これまで身に付けた知識や技術を自分以外のために活かしていると思う人の割合について、「いいえ」と回答した人は46.2%(2017年)から52.7%(2023年)へと増加しています

これまで身に付けた知識や技術を自分以外のために活かしていると思う人の割合



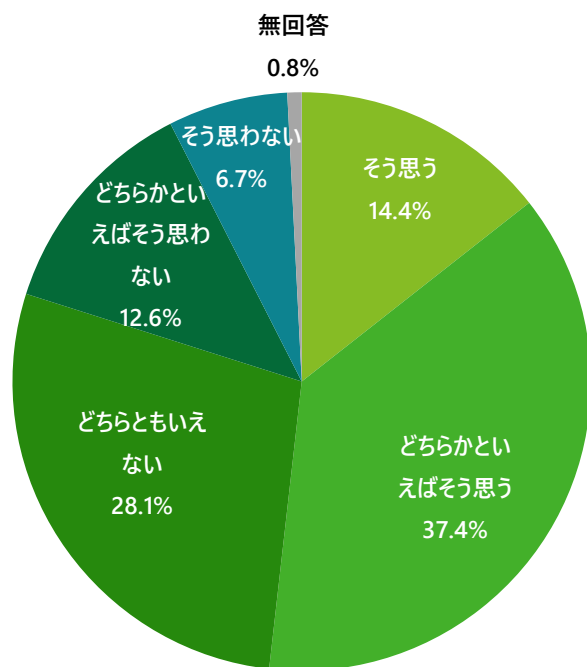
出所：清瀬市世論調査

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

市の歴史や伝統文化、文化財等に関心がある人の割合について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した人は51.8%(2017年)から43.3%(2023年)と減少しています

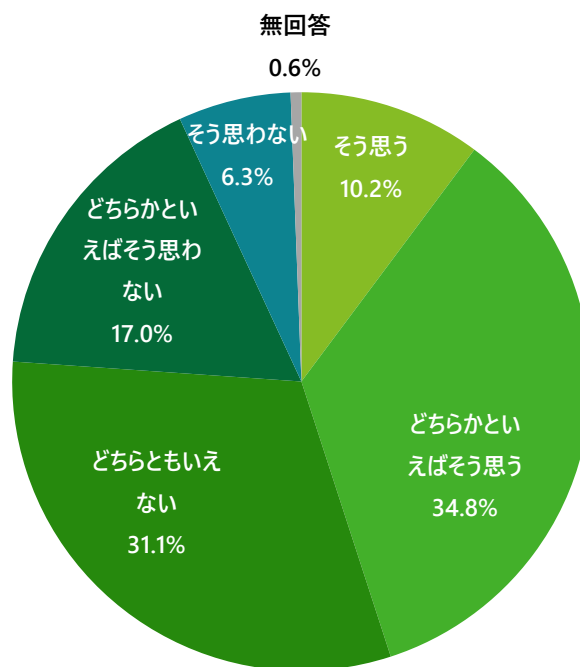
市の歴史や伝統文化、文化財等に関心がある人の割合

(n=506)



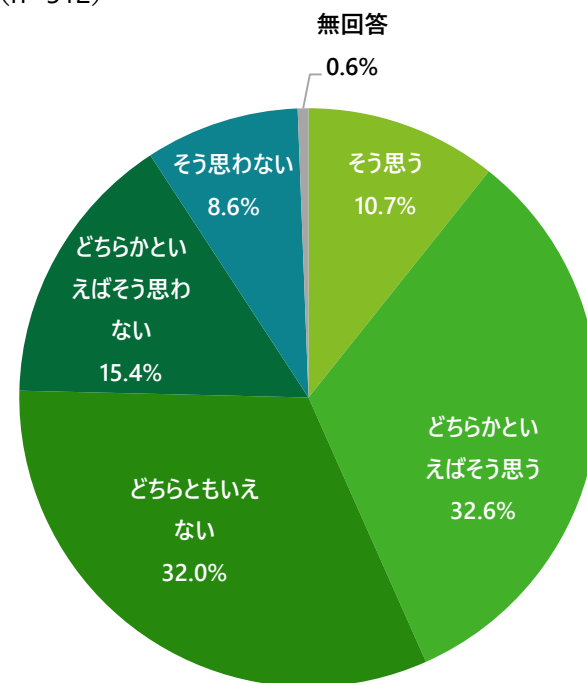
2017年

(n=630)



2020年

(n=512)



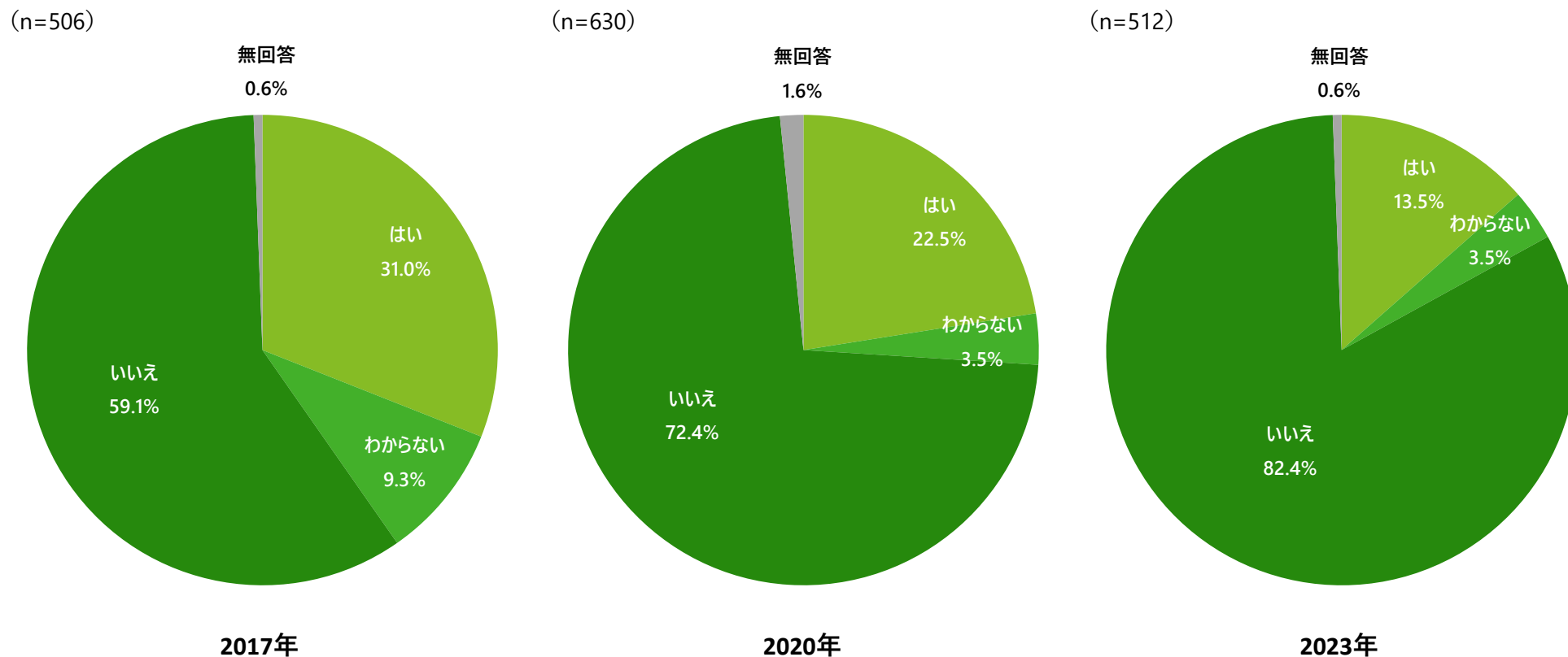
2023年

出所：清瀬市世論調査

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

この一年で市内の伝統行事を見に行ったり参加したりしたことがある人の割合について、「いいえ」と回答した人は59.1%(2017年)から82.4%(2023年)へと増加しています

この一年で市内の伝統行事を見に行ったり参加したりしたことがある人の割合

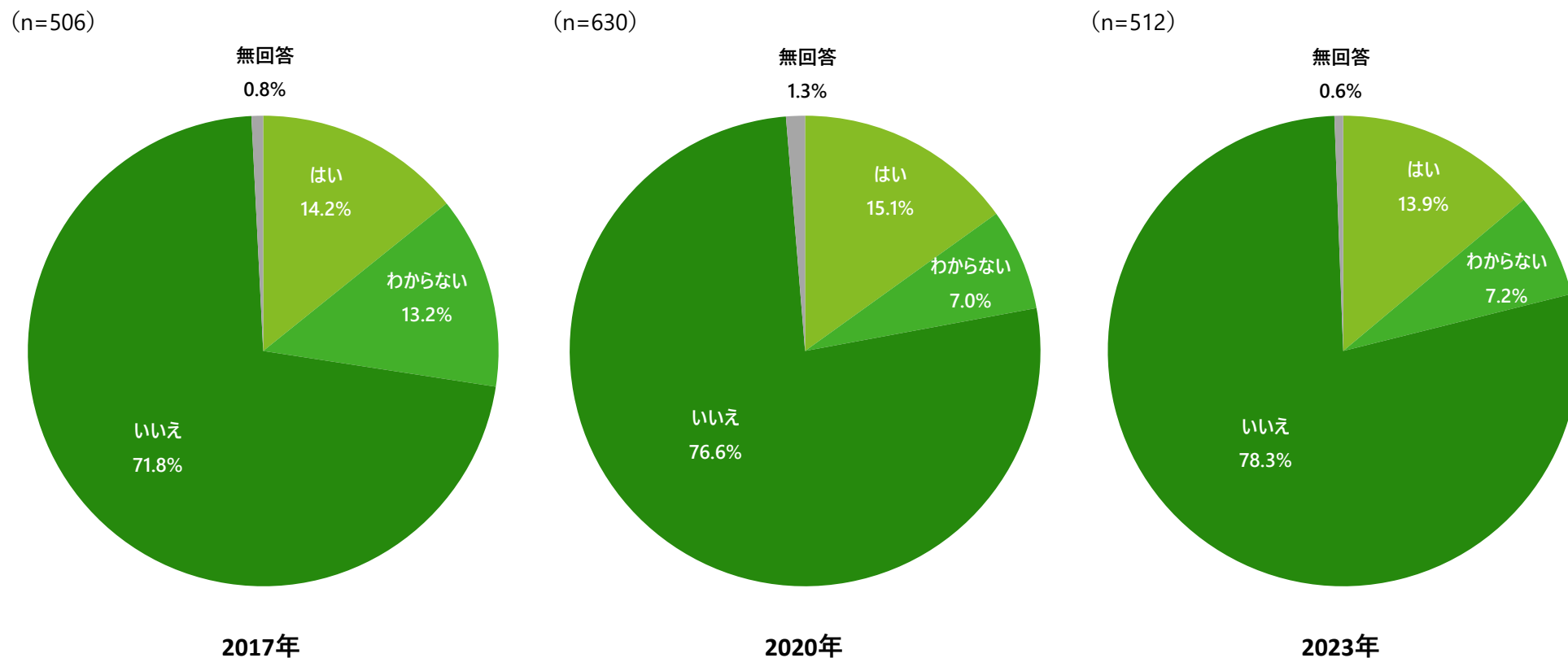


出所：清瀬市世論調査

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

この一年で生涯学習を行う機会（学びの機会）をもつことができたと思う人の割合について、「いいえ」と回答した人は71.8%(2017年)から78.3%(2023年)とやや増加しています

この一年で生涯学習を行う機会（学びの機会）をもつことができたと思う人の割合

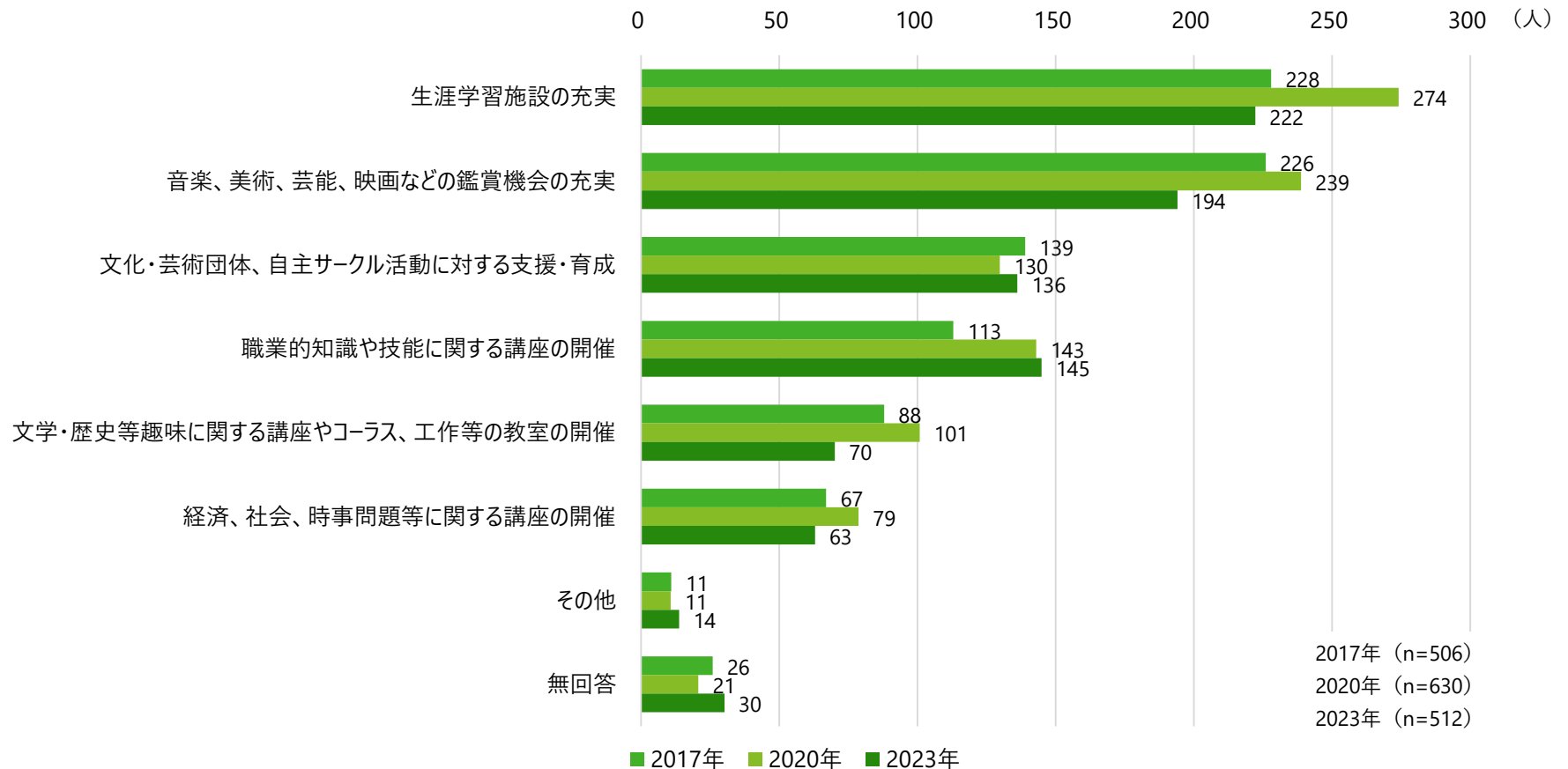


出所：清瀬市世論調査

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

生涯学習を行う上で、充実させた方が良いと思うものについては、「生涯学習施設の充実」と回答した人が最も多く、次いで「音楽、芸術、芸能、映画などの鑑賞機会の充実」、「文化・芸術団体、自主サークル活動に対する支援・育成」が多い結果となりました

生涯学習を行う上で、充実させた方が良いと思うもの

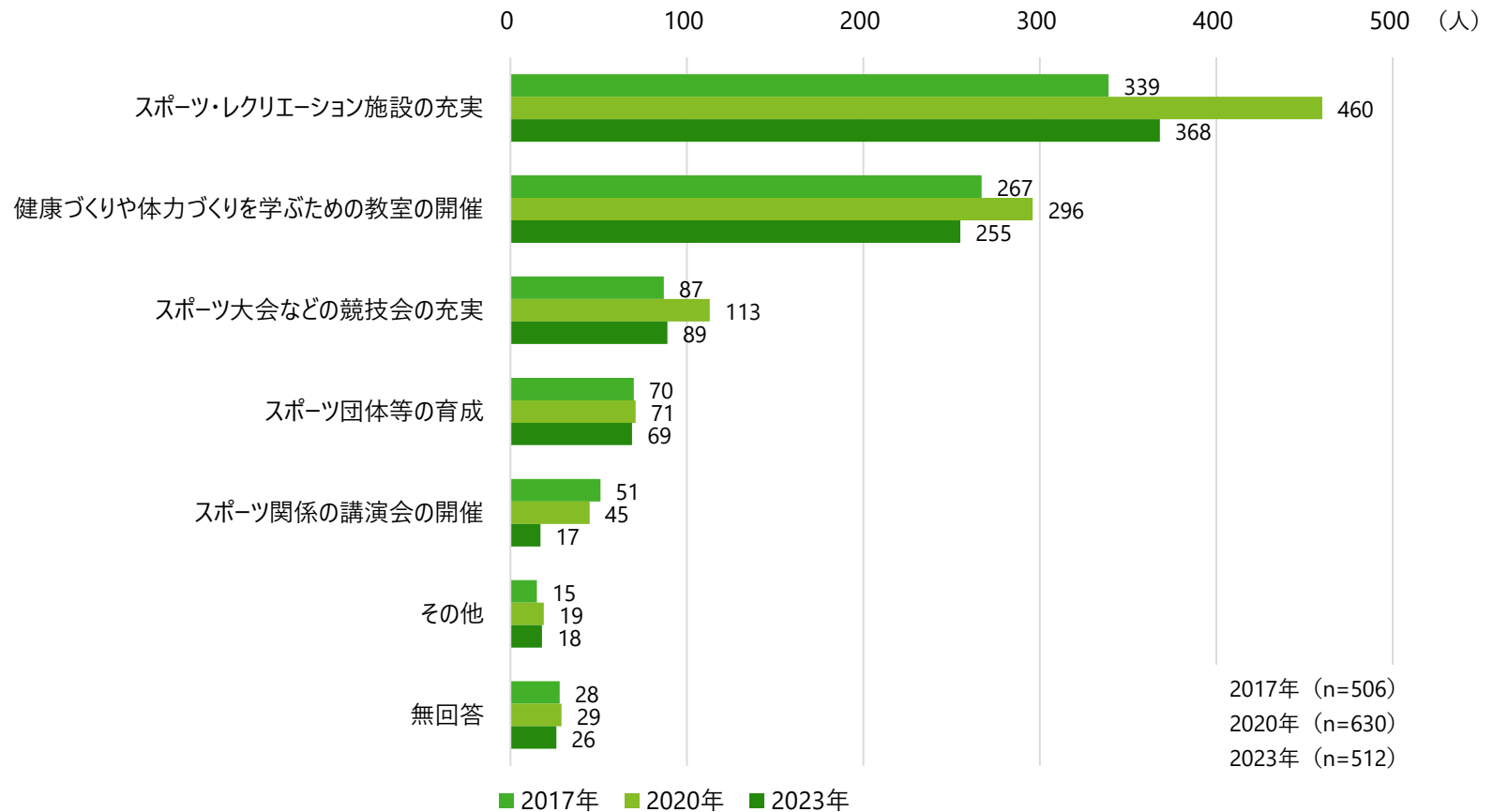


出所：清瀬市世論調査

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

スポーツ活動を行う上で、充実させた方が良くと思うものについては、「スポーツ・レクリエーション施設の充実」が最も多く、次いで「健康づくりや体力づくりを学ぶための教室の開催」「スポーツ大会などの競技会の充実」が多い結果となりました

スポーツ活動を行う上で、充実させた方が良くと思うもの



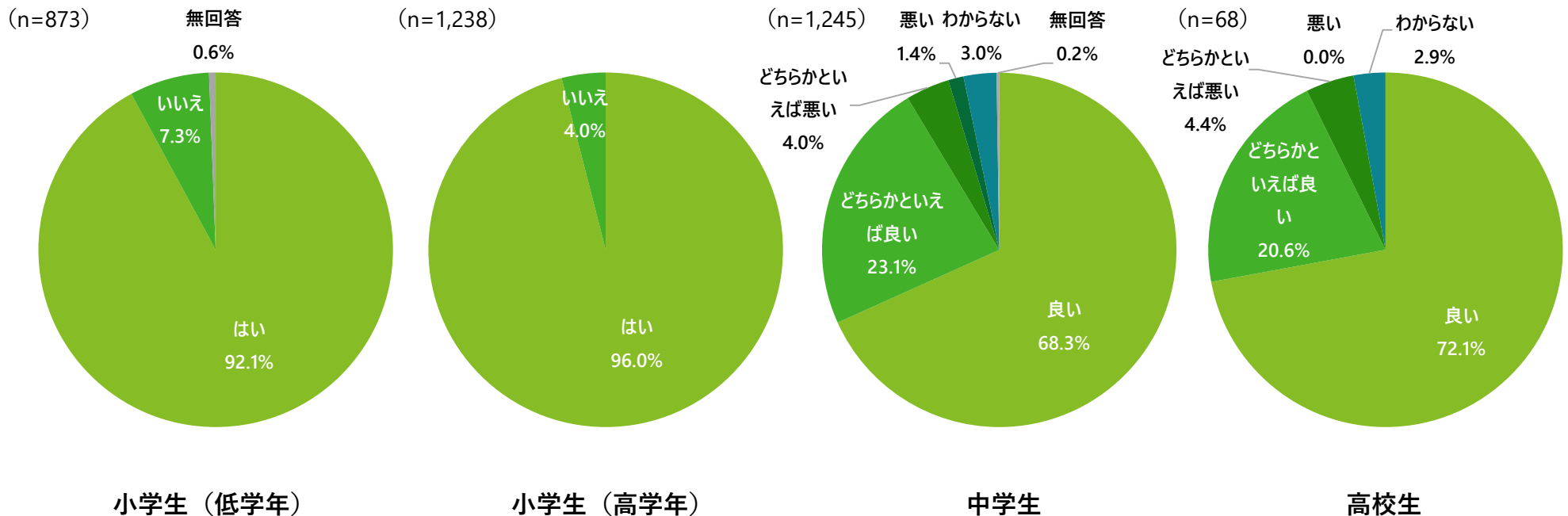
出所：清瀬市世論調査

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

令和 6 年度清瀬市子どもの意見聴取

家は居心地がいいかという質問に対し、小学生から高校生まですべての年代で約9割以上の子どもが「よい」と回答しました（「どちらかといえば良い」も含む）

家は居心地がいいか（小学生は“ほっとする”ことができるか）

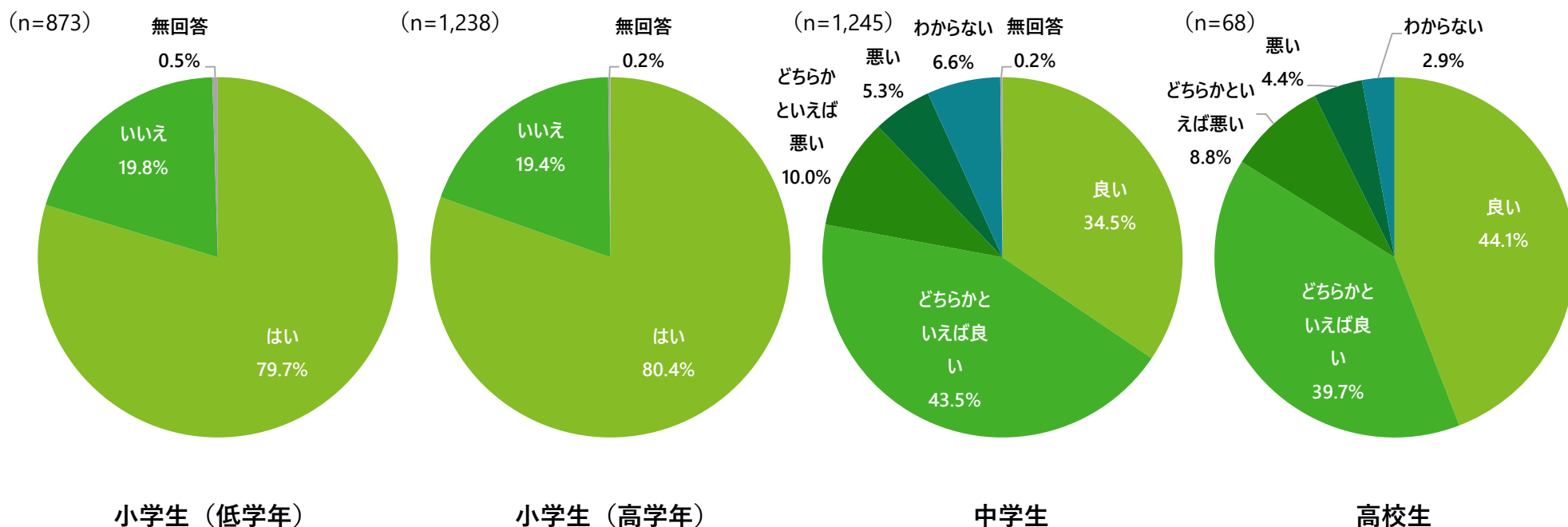


出所：令和 6 年度清瀬市子どもの意見聴取

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

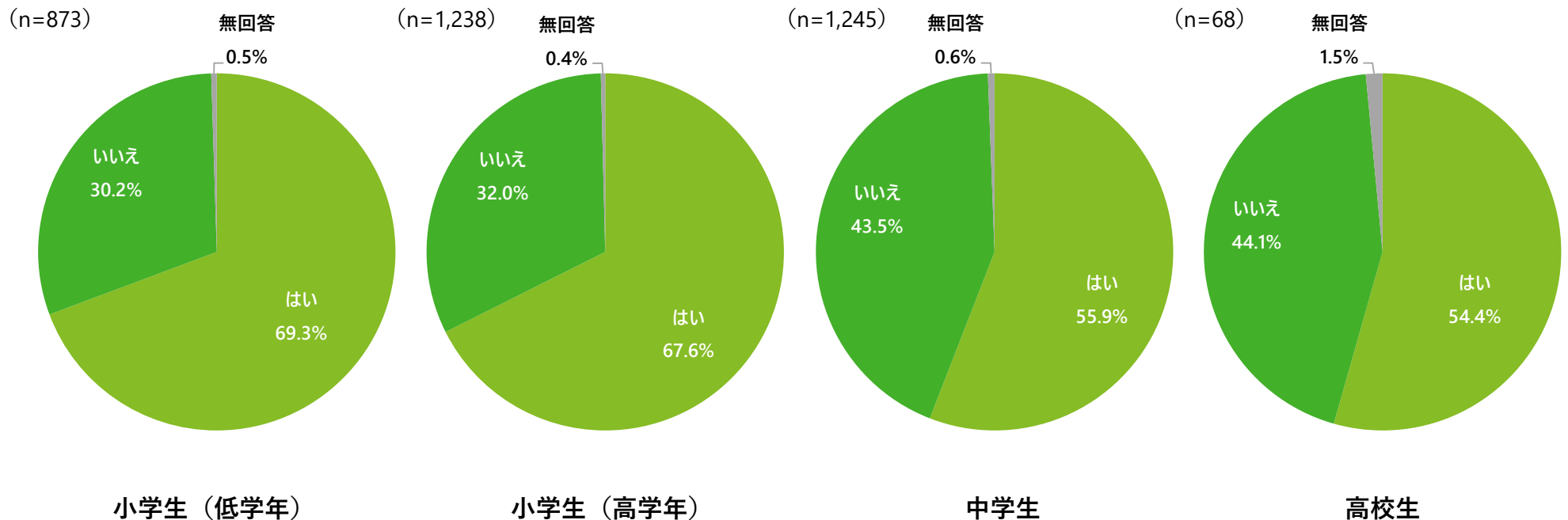
学校は居心地がいいかという質問に対し、小学生から高校生まですべての年代で約8割以上の子どもが「よい」と回答しました（「どちらかといえば良い」も含む）

学校は居心地がいいか（小学生は“ほっとする”ことができるか）



家や学校以外で居心地の良い場所があるかという質問に対し、小学生は約7割以上、中学生と高校生は半数以上の子どもが「はい」と回答しました

家や学校以外で居心地の良い場所があるか（小学生は“ほっとする”ことができるか）

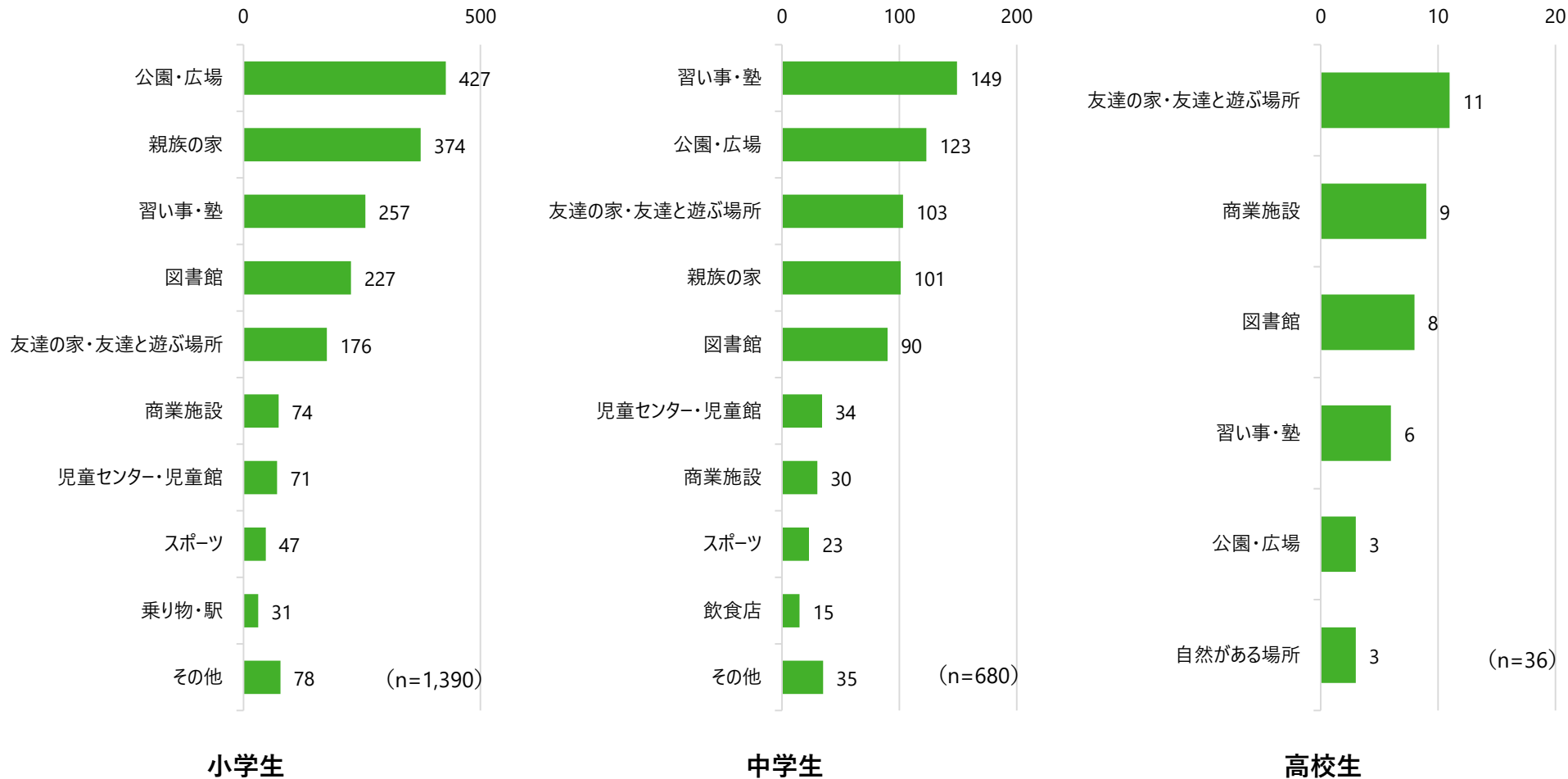


出所：令和 6 年度清瀬市子どもの意見聴取

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

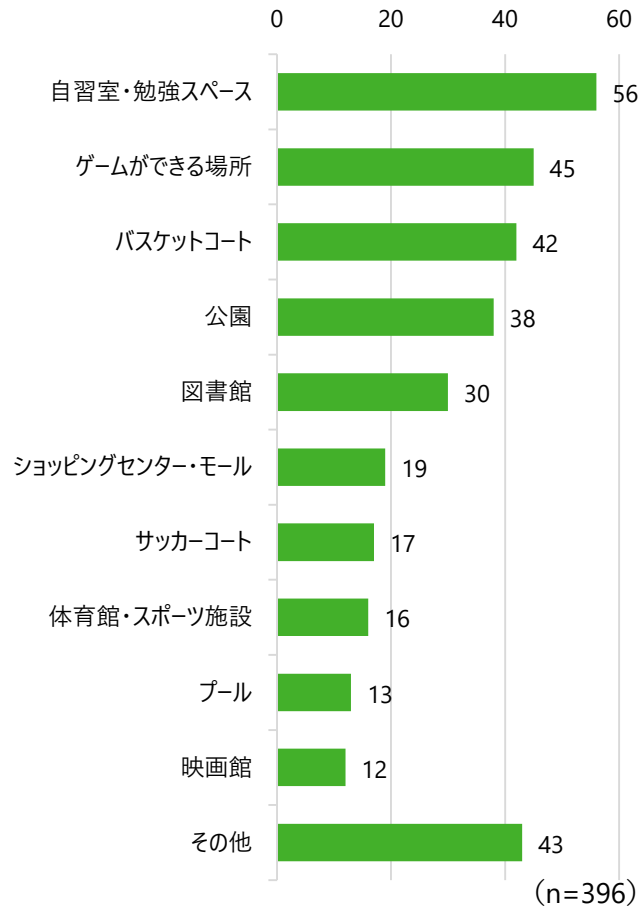
家や学校以外で居心地の良い場所については、小学生は「公園・広場」「親族の家」「習い事・塾」の順に多く、中学生は「習い事・塾」「公園・広場」「友達の家・友達と遊ぶ場所」、高校生は「友達の家・友達と遊ぶ場所」「商業施設」「図書館」の順に多い結果でした

家や学校以外で居心地の良い場所（小学生は“ほっとする”ことができる場所）

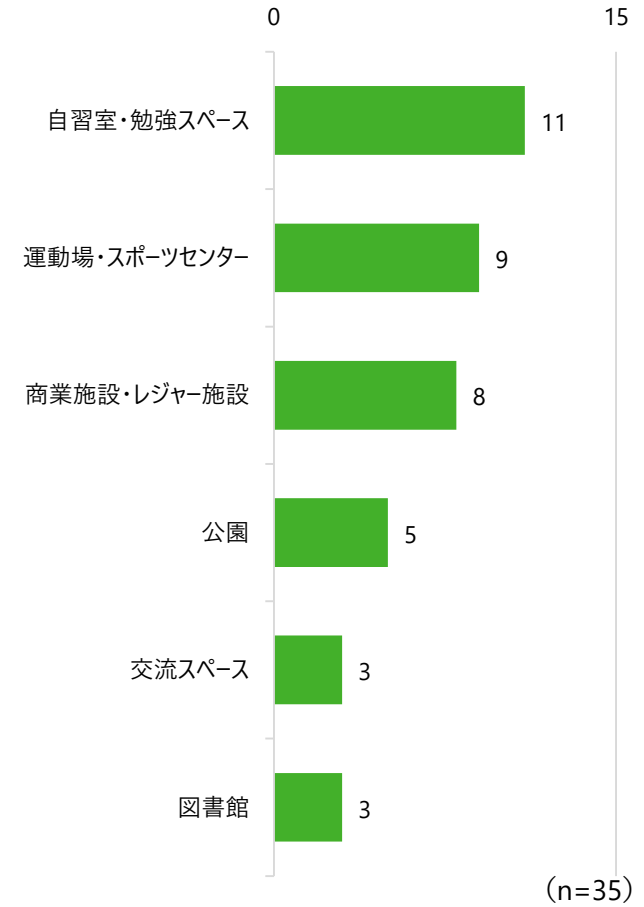


こんなところがあったら良いなと思う施設や場所については、中学生は「自習室・勉強スペース」「ゲームができる場所」「バスケットコート」の順に多く、高校生は「自習室・勉強スペース」「運動場・スポーツセンター」「商業施設・レジャー施設」の順に多い結果となりました

こんなところがあったら良いなと思う施設や場所



中学生



高校生

出所：令和 6 年度清瀬市子どもの意見聴取

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

卒業したらしてみたいことについては、小学生(高学年)は「部活」「勉強・受験・塾」「友達作り」の順に多く、中学生は「部活」「アルバイト」「遊ぶ」の順に多い結果となりました

卒業したらしてみたいこと



小学生（高学年）



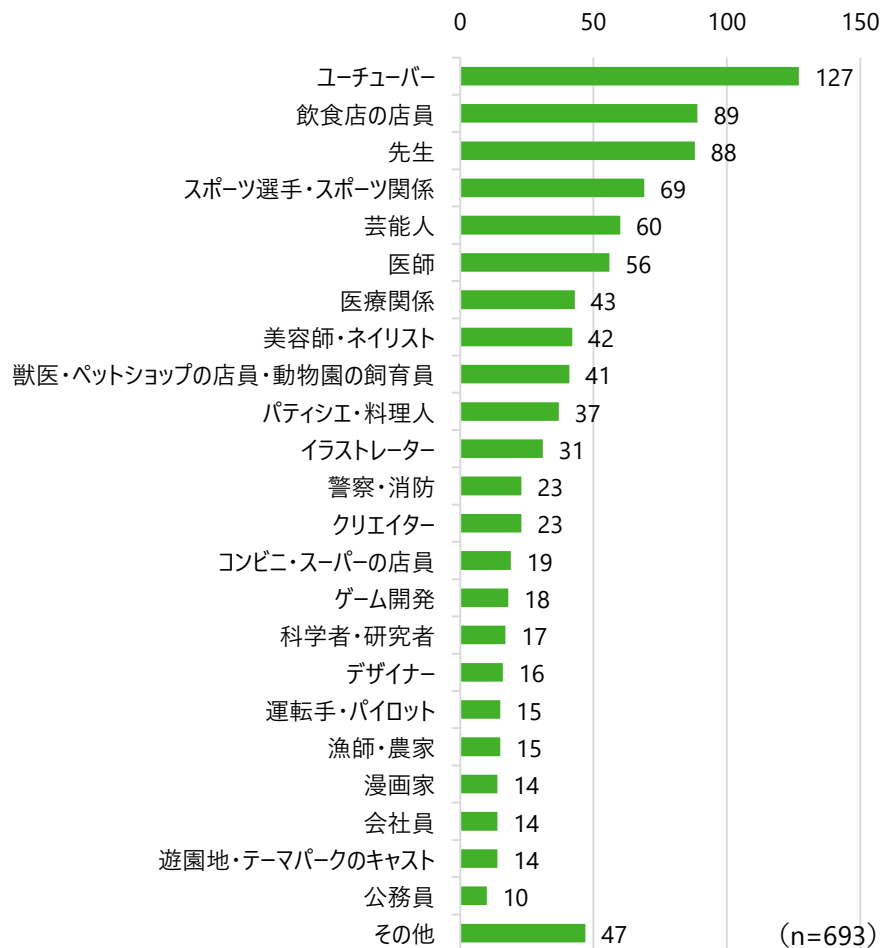
中学生

出所：令和6年度清瀬市子どもの意見聴取

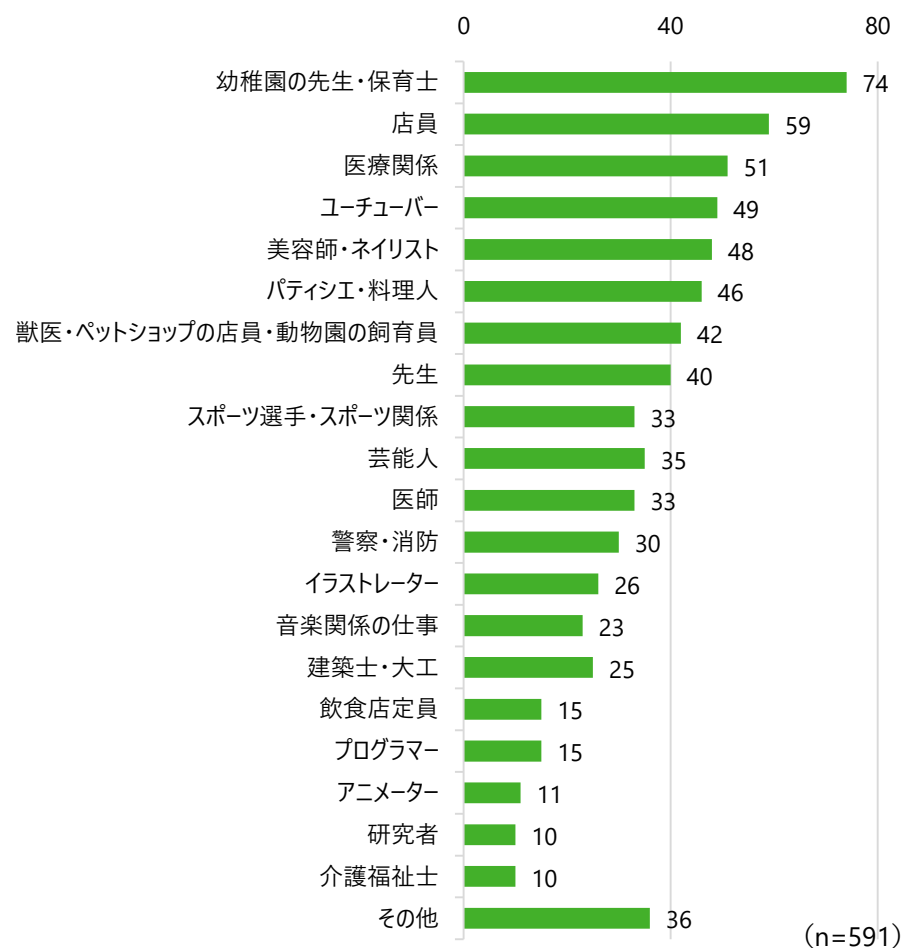
© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

体験してみたい職業については、小学生(高学年)は「ユーチューバー」「飲食店の店員」「先生」、中学生は「幼稚園の先生・保育士」「店員」「医療関係」の順に多い結果となりました

体験してみたい職業



小学生（高学年）



中学生

出所：令和 6 年度清瀬市子どもの意見聴取

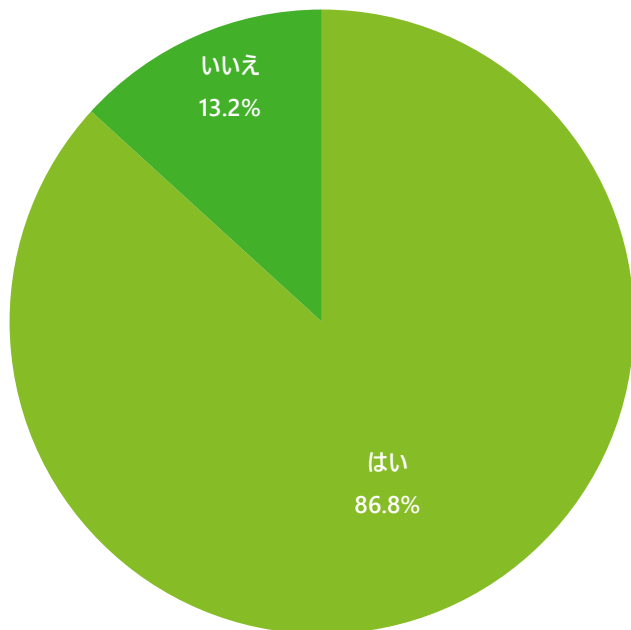
© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatu Group.

充実しているかという質問に対し、8割以上の高校生は「はい」と回答しており、
何をしているときに充実しているかという質問に対しては「友達と遊んでいる時・話をする時」「趣味をし
ている時」「休んでいる時・寝ている時」という順に多い結果となりました

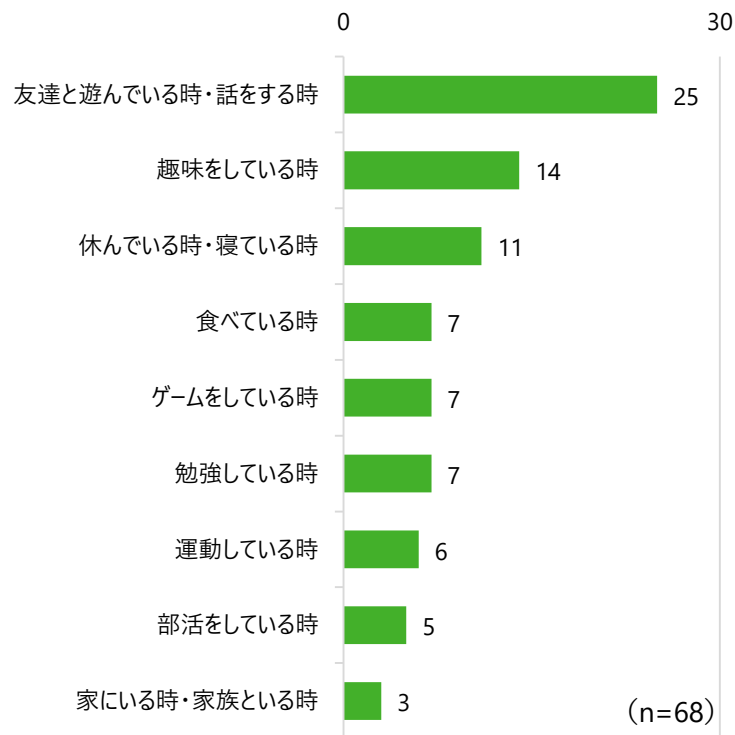
何をしているときに充実しているか

(n=68)

今の生活は充実しているか



何をしているときに充実しているか



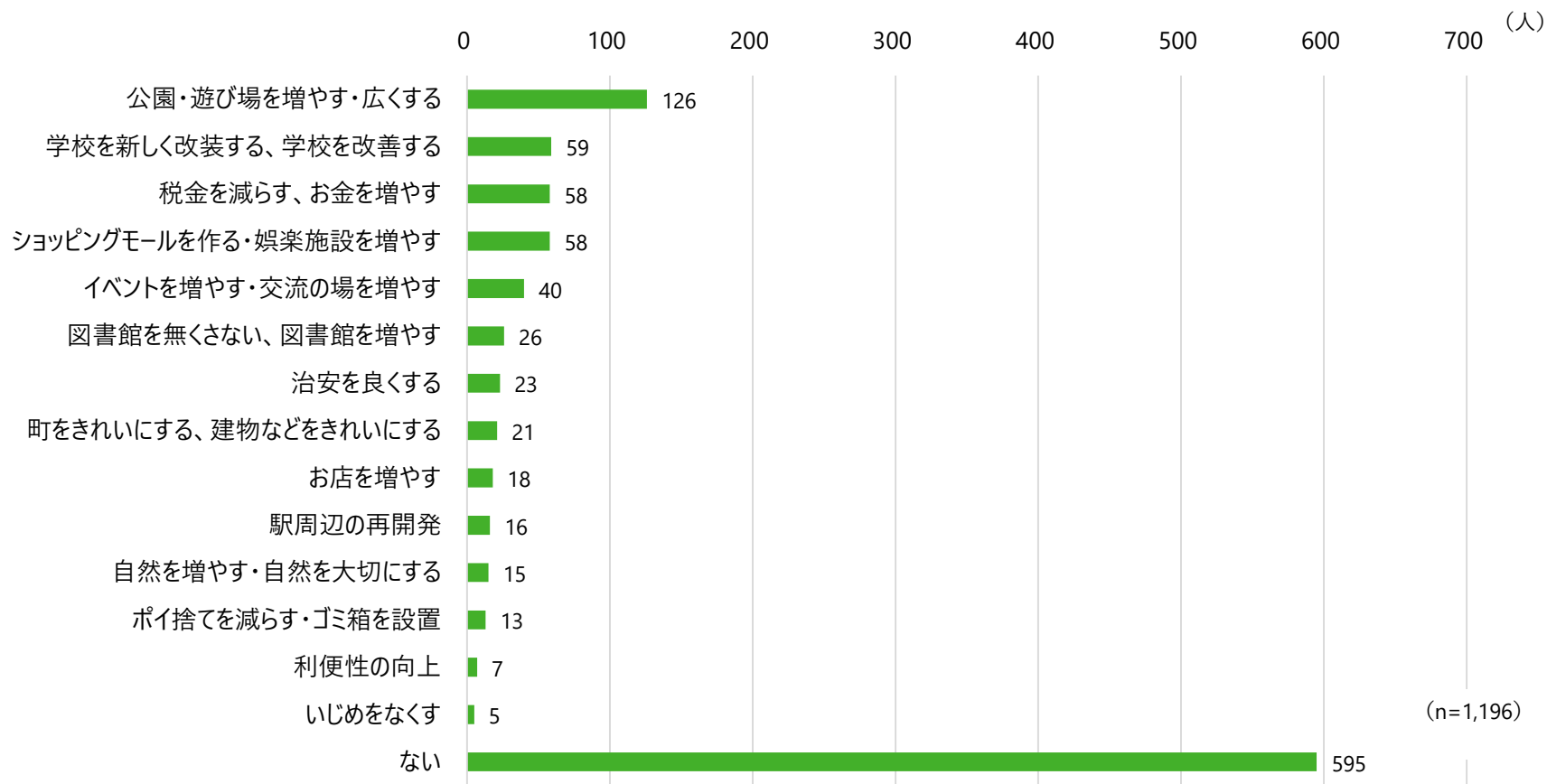
高校生

出所：令和6年度清瀬市子どもの意見聴取

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

幸せに暮らせるためにはどうしたらよいかという中学生への質問について、「ない」という回答が最も多く、次いで「公園・遊び場を増やす・広くする」「学校を新しく改装する、学校を改善する」という回答が多い結果となりました

幸せに暮らせるためにはどうしたらよいか



中学生

出所：令和 6 年度清瀬市子どもの意見聴取

© 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.